

# リアホナ

知恵ある者は  
恐れるには及ばない、  
10, 20 ページ

扶助協会の最良の働き, 26 ページ

彼らはわたしに強制できなかった, 36 ページ

立ち上がろう……カレブのために、「フレンド」8 ページ

2009年3月号のリアホナは、(紙面一回)12ページ、無二巻紙の形、紙張は200gの厚紙を使用。ISSN 1344-8595

# 成人

## 大管長会メッセージ

- 2 祈りと信仰により主のもとに来る  
トーマス・S・モンソン大管長

## 家庭訪問メッセージ

- 25 家族を支え、養い、守る

## 特集

- 8 完全を目指して アマンダ・ディーレンフェルト  
アイスクリームをすくっているときに完全について学んだこと
- 10 家庭貯蔵——新しいメッセージ  
だれでもできる食糧貯蔵と貯蓄の方法
- 15 福音クラシック——日の栄えに至る自立の本質  
マリオン・G・ロムニー管長  
独立と自立はわたしたちの霊的成長を左右する重要な鍵<sup>かぎ</sup>となります。
- 22 信仰によって歩く……見えるものによらず  
アダム・C・オルソン  
ダギー姉妹は目が見えなくなりましたが、霊的な視力は失いませんでした。
- 26 主の救いの業に焦点を当てる/  
ジュリー・B・ベック姉妹へのインタビュー  
扶助協会が組織されたときに意図された業を実行することで、わたしたちは互いに助け合ってキリストのもとに来ることができます。

## シリーズ

- 43 末日聖徒の声  
人生の困難、友人の訪問、奇跡をもたらした祈り、伝道活動
- 48 今月号の活用法  
家庭の夕べのためのアイデア、  
今月号に採り上げられているテーマ、  
家庭の夕べの成功例

表紙  
表紙——絵／ダン・パー  
裏表紙——写真／ジョン・ルーク、ウエルデン・C・アンダーセン

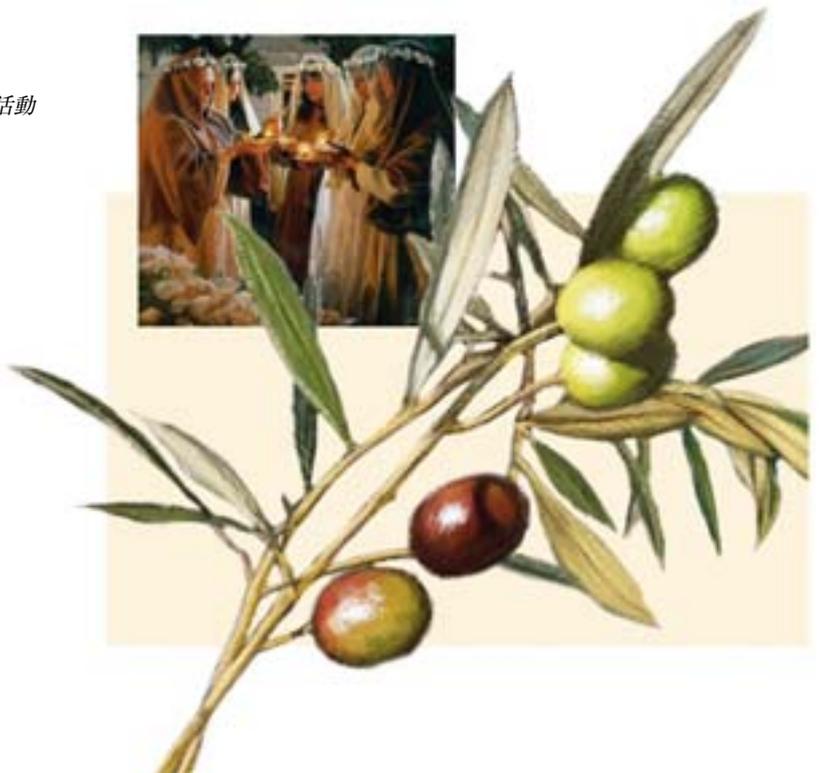
# 青少年

## 特集

- 20 10人のおとめのたとえ  
将来に備えるために、このたとえをどのように使えるでしょうか。
- 31 祈って取り組んだ『成長するわたし』  
イエシカ・アナベル・ベナビデス  
『成長するわたし』と、友達について祈ったこと
- 32 なぜ死者のためにバプテスマを施すのでしょうか  
D・トッド・クリストファーソン長老  
あなたの神殿奉仕が重要な理由
- 36 わたしの初めての戦い コリン・スリングズビー  
あの夜の選択がわたしの人生の方向を変えました。
- 38 搜索救助 リチャード・M・ロムニー  
火事、地震、ハリケーンその他の災害にあっても、この青少年たちは救援の備えができています。

## シリーズ

- 42 ポスター——リアルタイムで一对一の会話ができます



末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)  
大管長会: トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、  
ディーター・F・ウーグトルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バック、L・トム・ベリ、  
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、  
M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、  
リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、  
ジェフリー・R・ホルランド、デビッド・A・ベドナー、  
クエンティン・L・クック、D・トッド・クリストファーソン

編集長: スペンサー・J・コンディ

顧問: ゲーリー・J・コールマン、ケネス・ジョンソン、菊地良彦、  
W・ダグラス・ジャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ

編集主任: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボグ

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド、アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・パレット

編集スタッフ: マシュー・D・フリットン、デビッド・A・エドワーズ、  
ライン・ポーター、ガート、キャリー・カステン、ジェニファー・  
マディ、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オドカー、  
ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキ、チャド・E・  
ファリス、ジャン・ピンボロ、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・  
サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーグ、ジュリー・ワートル

主任秘書: ローレル・トイスマー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・J・カンペン

制作主幹: ジェン・アン・ピーターズ

デザイン制作スタッフ: カリ・R・アロウ、コレット・ネベカー、  
ハワード・G・ブラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、  
レジナルド・J・クリステンセン、キム・フェンスターマカー、  
キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、  
デニス・カービー、スコット・M・ムーイ、ギニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: ランディ・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブス・ローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替  
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
41512)にて教会管理本部配送センターへ送金いただければ、直接郵  
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ  
……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・  
キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA  
電子メール: [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org)

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、  
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ  
クライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ  
ア語、ギリシア語、キルギス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェ  
ーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、  
タミル語、チェコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トルガ語、日  
本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィ  
ジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、  
ポルトガル語、マラヤラム語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト  
ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本  
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において  
一時的に、また非営利目的で使用される場合は複製することができます。  
視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場  
合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、  
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—  
[cor-intellectualproperty@ldschurch.org](mailto:cor-intellectualproperty@ldschurch.org) にご連絡ください。

「リアホナ」は、教会のホームページ [www.lds.org](http://www.lds.org) (英語) に様々な言語で掲載  
されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音ライブラリ)をクリック  
してください。その他の言語は「Languages」(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年3月号第11巻第3号「リアホナ」(USPS331)英語版(ISSN  
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple  
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は  
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。(送料込み/定期刊行物郵送料  
はソルトレークシティで納められています。)所変更は80日前にご連絡く  
ださい。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧発送先を明記してください。合衆  
国とカナダでの購読申し込みは、下記のソルトレーク配送センターにお送りく  
ださい。購読に関するお問い合わせ: 1-800-537-5971。クレジットカード  
(ビザ、マスターカード、アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で承ります。  
(カナダ郵便情報: 出版承認番号 40017431)

郵便局長殿: 住所変更がございましたらお知らせください。連絡先: Salt  
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,  
Salt Lake City, UT 84126-0368

# こ ども 子 供

## 預言者の声

F2 まことの教会 ヘンリー・B・アイリング管長

## 特集

F8 立ち上ろう……カレブのために エーミー・S・テート

## シリーズ

F4 分かち合いの時間—「わたしの家は ちつじよの家である」  
シェリル・エスプリン

F6 よげんしゃ ジョセフ・スミスの しょうがいから—  
おも 思いやりの しょうがい

F10 友達になろう—いのりにより高められる

F13 イエス様のように—  
お父さんのためのいのり  
レベッカ・C

F14 小さなお友達へ—  
福音に従って生きる勇氣  
エリック・W・コピシュカ長老

F16 色を めりましょう



「フレンド」表紙  
絵/ジェニファー・トルマン



今月号のどこかに隠れている  
デンマーク語のCTRリングを  
探しましょう。  
選べ、正しいページを!



## 読者からの便り

### 神殿に来る

2007年10月号の『リアホナ』の家族  
歴史と神殿参入に関するすばらしい  
テーマに感謝しています。『リアホナ』  
が会員のもとに届いた1週間後、この  
地の家族歴史センターでの活動は3倍  
に増えました。それはその月の『リア  
ホナ』のおかげであるとわたしは知  
っています。時々、会員たちは神殿の儀  
式を先祖のために行うことを思い起こ  
させてもらう必要があります。『リアホ  
ナ』のおかげでわたしも他の人々も  
いっそう力を尽くして主に仕えるこ  
ができたので、感謝の気持ちでいっぱ  
いです。

ブラジル、アンダーソン・ナシメント

### 小さなことから

わたしたちは2007年4月の総大会  
でキース・B・マクマリンビショップが  
語った勧告に従っています。毎週少し  
ずつであっても貯金をし、「蓄える」よ  
うにとのことでした。指導者を通して  
語られた「小さなことから大いなるこ  
とが生じる」(D&C 64:33)という主の  
約束が果たされることをわたしたちは  
知っています。

コロンビア、リカルド・メルジャン、ミレヤ・メルジャン



# 祈りと信仰により 主のもとに来る

トーマス・S・モンソン大管長

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」<sup>1</sup> イスラエルの王であり、ダビデの息子であった賢者ソロモンはそのように言いました。

ニーファイの弟ヤコブはこう述べました。「確固とした思いをもって神に頼り、篤い信仰をもって祈りなさい。」<sup>2</sup>

この神権時代において預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は言われました。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」<sup>3</sup>

神からの靈感を通して受けたこの勧告は、乾いた地にしみ込む清く澄んだ水のように、今日のわたしたちの心にしみ込んできます。

わたしたちは問題の多い時代に生きています。診察室には体の苦痛だけでなく、情緒的な問題に悩む人の列が絶えません。離婚法廷は未解決の問題を抱えた人であふれています。政府や企業の人事管理者は問題を抱えた人々を援助するのに多くの時間を費やしています。

取るに足りない苦情への対応を任されているある人事担当者が、とてつもなく忙しい一日を終えたある日のことです。未解決の問題を持つ人々に向けて、冗談のつもりで自分の机に小さな張り紙をしました。「お祈りはしましたか。」

彼は気づいていなかったかもしれませんが、この簡単な助言がより多くの問題を解決し、より多くの苦しみを軽くし、より多くの罪を防ぐことでしょう。そしてほかの方法では得られない、より深い安らぎと満足感を人の心に与えるのです。

ある著名なアメリカ人判事が次のように問われました。「犯罪や法律違反を減らし、世界中の人々が安らぎと満足を感じながら生活するために、世界各地の一般市民には何ができるでしょうか。」彼は慎重に、こう答えました。「家族の祈りという昔ながらの古い慣習に立ち返ることを提案します。」

## 祈りの持つ強さ

家族の祈りは、わたしたちにとっては時代遅れの慣習ではありません。そのことに、わたしたちは一つの民として感謝すべきではないでしょうか。家族がともに祈る姿ほど美しい光景はこの世にありません。よく引用される「ともに祈る家族のきずなは途絶えることがない」という言葉は真実です。

主は家族で祈るように次のような言葉で命じられました。「あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。」<sup>4</sup>

典型的な末日聖徒の家族が主に祈りをささげる姿を一緒にのぞいてみましょう。父親、母



家族がともに祈る姿ほど  
美しい光景は  
この世にありません。  
よく引用される  
「ともに祈る  
家族のきずなは  
途絶えることがない」  
という言葉は  
真実です。



**祈**ることは  
身体的または  
精神的な弱さ  
を示すのではないかと  
感じる人々は、  
人はひざまずくときに、  
最も堅固である  
ということ  
覚えておくべきです。

親、子供たち一人一人がひざまずき、頭を下げて目を閉じます。愛と一致、安らぎの美しい御霊が家庭を満たしていきます。「お父さんが正しいことをして主の戒めに忠実でありますように」という小さな息子の神への祈りを聞く父親は、大事な息子の祈りをないがしろにすることがあるでしょうか。「娘が伴侶を見いだすために導きを受け、神殿結婚の備えができますように」という優しい母親の主への祈りを聞く10代の娘は、心から愛する母親の謙遜な嘆願を尊重したいと思わないでしょうか。父親、母親、子供たち一人一人が、すばらしい息子たちがふさわしい生活を送り、やがては主の大使として教会の伝道地で仕える召しを受けるようにと熱心に祈るならば、そのような息子たちは宣教師として奉仕する強い望みを抱きながら若い男性に成長していくことでしょう。

数年前に、コロラド州の高校に通う末日聖徒のある若い女性が1通の手紙を書きました。その手紙を書いたのは、家族の祈りに心を動かされたためだとわたしは確信しています。生徒たちは偉大な人物を選び、その人にあてて手紙を書くように言われていました。多くの生徒が有名なスポーツ選手や宇宙飛行士、合衆国大統領その他の著名人に手紙を書きました。しかし、この若い女性は、自分の父親に手紙を書きました。手紙の中で彼女はこう書いています。「お父さんはわたしが知っている中で最も偉大な人なので、

お父さんに手紙を書くことにしました。わたしの心にある最大の望みは日の栄えの王国でお父さん、お母さん、家族の皆のそばにいる特権を得られるように生活することです。」それは父親にとって最も大切な手紙となりました。

家族の祈りや個人の祈りを主にささげるときには、主を信じ、信頼しましょう。パウロからヘブル人へ向けられた訓戒を忘れないください。「神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」<sup>5</sup> もしわたしたちの中に、常に祈るといふ勧告に聞き従うことを引き延ばしてきた人がいるならば、今こそまさに始める時です。ウィリアム・クーパーはこう語りました。「最も弱い聖徒がひざまずく姿を見るとき、サタンは恐れおののく。」<sup>6</sup> 祈ることは身体的または精神的な弱さを示すのではないかと感じる人々は、人はひざまずくときに、最も堅固であるということ覚えておくべきです。

信仰を持ったことがなければ、信仰とはどういうものか分かりません。そして信仰を否定するかぎり、信仰を得ることはできません。信仰と疑いが一つの心に同時に存在することはできません。どちらか一方が他方を払いのけるからです。

### 主の招きに応じる

すべての疑いを捨て去り、揺るぎない信仰を持つことを望むならば、ヤコブの手紙の中にある、皆さんやわたしに向けられた招きに応じることです。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。」<sup>7</sup>

この約束に心を動かされた青年ジョセフ・スマスは、神に祈り求める決心をしました。彼は

自分の言葉で次のように宣言しました。

「ヤコブが指示しているとおりに行く……すなわち神に願い求める……という結論を出すに至った。わたしはついに『神に願い求め』ようと決意した。もし神が知恵に不足している者に知恵を与え、しかもとがめもせず惜しみなく与えてくださるならば、思い切って願い求めてみるべきだと結論づけたのである。

そこで、神に願い求めるというこの決心に従って、わたしはこれを実行するために……森に入って行った。……わたしが

**ヤ**レドの兄弟が嘆願し、  
それにこたえて神が石に触れられたときに  
その指をヤレドの兄弟が見たのは、  
揺るぎない信仰によるものでした。



このようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまっただ中であっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。」<sup>8</sup>

これまでに祈ろうとしたことがなかったからというだけの理由で、永遠の父なる神に嘆願することをためらってきたのなら、確かに預言者ジョセフの模範から勇気を得ることができます。しかし、預言者がしたように、わたしたちも疑わずに信仰をもって祈りをささげなければならないということ覚えておきましょう。

ヤレドの兄弟が嘆願し、それにこたえて神が石に触れられたときにその指をヤレドの兄弟が見たのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>9</sup>

ノアが神の命令に忠実に従い箱舟を造ったのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>10</sup>

アブラハムが愛する息子イサクを進んで犠牲としてささげようとしたのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>11</sup>

モーセがエジプトからイスラエルの民を導き出し、紅海を渡ったのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>12</sup>

ヨシュアと従者たちがエリコの石垣を崩したのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>13</sup>

ジョセフが天の御父である神と御子イエス・キリストにまみえたのは、揺るぎない信仰によるものでした。<sup>14</sup>

さて、疑い深い人はこのような信仰による奇跡の話は昔のことであり、時代は変わったのだと言うかもしれません。

時代はほんとうに変わったのでしょうか。わたしたちは今日も、子供を愛し、義になつた生活を送ってほしいと望んでいるのではないのでしょうか。また、神の神聖な守りの御手を必要とし、主の憐れみに包まれ、主が与えてくださったこの命に恩を受けているのではないのでしょうか。

時代はそれほど変わっていません。今日もなお、祈りは力、すなわち霊的な力を与えてくれます。今日もなお、祈りは安らぎ、すなわち霊的な安らぎをもたらしてくれます。

### 行いを伴う信仰

天の御父は、わたしたちがどこにしようと、信仰をもってささげた祈りを聞き、こたえることができになります。これは世界中の伝道地で特に当てはまります。デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)のもとでカナダ伝道部を管理していた当時、モンソン姉妹とわたしは、この世界で最も輝かしい青年男女とともに奉仕する機会に恵まれました。この若い

**わ** たしたちは  
揺るぎない  
信仰をもって  
神を信頼し、  
主の大きな力に  
助けを求めることが  
できます。  
主はいつも  
「わたしのもとに  
きなさい」と  
呼びかけて  
おられるのです。

宣教師たちの生活はまさに信仰と祈りの模範でした。

新しく到着したばかりの宣教師がある日わたしの事務所に来て座りました。彼は明るく、強く、幸せそうで、自分が宣教師であることに感謝しているようでした。熱意に満ち、奉仕したいと心から望んでいました。わたしは次のように話しかけました。「長老、お父さんとお母さんは、あなたの伝道の召しを心から応援していることでしょうか。」彼はうつむいてこう答えました。「いえ、そうでもないのです。会長、父は教会員ではありません。父はわたしたちが信じていることを信じていませんから、わたしの責任の大切さがよくは分からないのです。」

わたしは自分自身ではないある源に促されて、ためらうことなくこう言いました。「長老、あなたが正直に、勤勉に神に仕え、主の御言葉を宣べ伝えるならば、お父さんはあなたの伝道が終わるまでに改宗します。」彼はわたしの手をしっかりと握り締めました。彼の目から涙があふれ出て頬を伝っていきました。彼はこう言いました。「もし父が真理を受け入れてくれたら、人生でそれ以上の祝福はありません。」

この青年はただ約束が実現することを望み、願いながら、何もせず座っているようなことは

ありませんでした。むしろ先人の賢い勧告に従いました。「すべてを神にゆだねるように祈れ。すべてが自分にゆだねられているように働け。」この青年は宣教師として、そのように奉仕したのです。

宣教師大会の度に、わたしは集会の前に彼を探し出し、聞きました。「長老、お父さんはどうしていますか。」

彼の返答はいつも次のようなものでした。「会長、何の進展もありません。でも伝道部長を通して与えられた約束を主が果たしてくださいることを固く信じています。」やがて数週間、数か月が過ぎました。ついに、わたしたち自身が伝道地から帰還するまで残り2週間となったとき、わたしはこの宣教師の父親から手紙を受け取りました。そこにはこう書いてありました。

「親愛なるモンソン兄弟、

息子は最近カナダで伝道を終えて帰って来ました。大変お世話になり、心からお礼申し上げます。息子はわたしたちをいつも感化してくれました。

息子は伝道に出たとき、帰るまでにわたしが教会の会員になるという約束を受けました。わたしは存じませんでした、モンソン兄弟が息子にそう約束して下さったそうですね。

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 「行いを伴う信仰」の項から宣教師に関する記述を読む。この宣教師に与えられた約束が実現するために信仰、祈り、熱心な働きがどのような助けになったかを話し合う。自分たちが主の助けを求めている事柄について考えてみるよう、家族に言う。必要な答えや助けを得るためにできることを書き出してもらう。

また、主への信仰を働かせ、助けを祈り求め、解決策を見いだすためにできることを行うように勧める。

2. 「主の招きに応じる」の項から聖典の事例を読む。家族で順番に自分自身の経験を基にして次の文章を完成させる。「……は、疑いのない信仰によるものでした。」さらに深い信仰をもって祈るとはどのような意味か話し合う。家族に「お祈りはしましたか」と書いたカードを渡す。

わたしは息子が伝道を終える1週間前にバプテスマを受けました。このことを喜んでお伝えします。現在は相互発達協会のスポーツディレクターをしており、教える責任も受けています。

息子は今ブリガム・ヤング大学に通っています。下の息子も最近バプテスマを受けて教会員に確認されました。

この2年の間に伝道地の人たちから息子が受けたすべての親切と愛に、重ねてお礼を申し上げます。

心を込めて、感謝に満ちた父親より。」

ここでもまた、謙遜な、信仰深い祈りがこたえられました。

世の初めから今日に至るまで、信仰深い人々の物語には常に1本の金の糸が流れています。アブラハム、ノア、ヤレドの兄弟、預言者ジョセフ・スミス、その他数え切れない人が神の御心に忠実でありたいと望みました。聞く耳、見る目、知る心、感じる心を持っていました。

彼らは決して疑わず、信頼しました。

わたしたちは個人の祈りや家族の祈りを通して、揺るぎない信仰をもって神を信頼し、主の大きな力に助けを求めることができます。主はいつも「わたしのものにきなさい」と呼びかけておられるのです。<sup>15</sup> ■

#### 注

1. 箴言3:5-6
2. モルモン書ヤコブ3:1
3. 教義と聖約6:36
4. 3ニーファイ18:21
5. ヘブル11:6
6. ウィリアム・クーバー, *Olney Hymns, The Oxford Dictionary of Quotations*, 第2版, 改訂版(1966年), 161
7. ヤコブの手紙1:5-6
8. ジョセフ・スミス—歴史1:13-14
9. エテル3:1-16参照
10. 創世6:13-22参照
11. 創世22:1-14参照
12. 出エジプト14:15-22参照
13. ヨシュア6:2-20参照
14. ジョセフ・スミス—歴史1:14-19参照
15. マタイ11:28



アマンダ・ディーレンフェルト

**幼**いころから、わたしはいつも完全主義の傾向がありました。ですから、祝福師の祝福を受けたとき、<sup>きせつ</sup>その中で言われた一つのことについて、まさに自分のことを言っていると感じました。それは、わたしは課せられた仕事に対して「全力を尽くして、完全を目指す」ということでした。しかし当時は、完全とは何か、また主の恵みがどのような役割を果たすのか、ほとんど理解していませんでした。

1998年、わたしは健康上の理由で、伝道地から早めに帰還しました。伝道を「完全に」終えなかったことで、深い罪悪感を抱きました。この挫折感に、病気についての不安も加わりました。それまでのところ、医師はわたしの病気の原因を突き止めることができなかったのです。

健康上の問題はありましたが、前向きでなければならぬと思い、教育を受け続けるために大学に入りました。しかし2学期が過ぎたばかりのころ、痛みを襲われ、緊急手術のために再び故郷に戻りました。医師たちがわたしの病気を自己免疫疾患であると診断したのはこのときでした。

手術後の回復期に、10代のときに働いていた菓子屋でアルバイトを始めました。自分にできることをしていたにもかかわらず、やりがいを感じませんでした。ましてや「完全に」できることなど何一つありません。わたしは人と自分を比べるようになりました。特に、友人たちが大学で学位を取得したり、伝道したり、家庭を持ったりしているのに、自分は遅れを取っていると感じていました。

ステファニーに出会ったのは、そのようなときでした。ある日、菓子屋にやって来た彼女は、頭に黒いスカーフを巻いていました。わたしの大好きなチョコレートを紹介していると、彼女の状況について尋ねてみたいという気持ちになりました。彼女はほほえみながらスカーフを外し、髪のない頭を指さしながら、化学療法を受けていると言いました。この会話をきっかけに、包み隠しのない特別な友情が始まりました。

ステファニーはいつも店にやって来て、チョコレートを食べ、人生について話しました。わたしは彼女が教会員であることや、肉体的にも霊的にも苦闘していたことを知りました。彼女は幾度か反抗的な選択をしたことや、悔い改めるために努力したことについて話してくれました。そして今では、ご主人と神殿で結び固められることを目指して頑張っているのです。

ある日わたしは、自分の試練について少し話しました。そんな境遇のせいでどれほど落胆しているか打ち明けました。「高校時代と同じように、こうして今でもアイスクリームをすくっているの。伝道も大学も最後までできなかったし、今も何をしたらいいのか分からないのよ。」

ステファニーの答えはこうでした。「人生のレースを決まった時間内に終える必要があるの？ ただ走ってるだけじゃダメなの？」

そのとき初めて、自分が最善を尽くしていること、最善を尽くせばそれで十分だということが分かりました。救い主はわたしを愛しておられ、<sup>あがな</sup>贖いを通じてもたらされる主の恵みは、わたしの足りない部分を補って余りあるのです。ずっと主に頼って生きてきたつもりでしたが、ステファニーの考えを聞くまで、わたしの人生の中で主がその役割を果たされるという大切な教えを、どういっわけか見逃していたのです。

エテル書第12章27節にはこう書かれています。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」へりくだって主を信じる時、主が確かに弱さを強さに変えてくださることが分かる経験を何度もしてきました。この真理について証が増し<sup>あかし</sup>加えられたおかげで、わたしは自分の試練に、さらなる信仰と希望をもって立ち向かえるようになりました。

ステファニーとのあの会話から数か月後、わたしは新しい仕事を始めるために故郷を離れ、ステファニーとの連絡も途絶えてしまいました。ある日母が電話をしてきて、新聞の死亡告示欄でステファニーの名前を見たと言ってくれました。わたしは故郷に戻り、葬儀に参列しました。そこで、亡くなるほんの3週間前に彼女が夫婦の結び固めを受けたことを知りました。

自分の人生にステファニーとの出会いがあったこと、そしてレースを完走することについて教わったことで、わたしの心は感謝に満たされました。常に全力で走る必要はないのです。ゴールに顔を向けるだけで精いっぱいするときもあるでしょう。たとえどんな速さでも、「自分の最善」を尽くして前進していればそれでいいのです。主の恵みがわたしたちすべてに十分であるがゆえに、わたしたちの努力は完全なものとなります（モロナイ10：32参照）。■

# 金を目指して



# 家庭貯蔵—— 新しいメッセージ

## 家庭貯蔵に関する

皆さんの考え方の消費期限を見てみましょう。  
古くなって期限の切れた考え方を  
捨てる必要があるかもしれません。



**イ** ブリン・ジェフリーズ姉妹は、アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックスの弁護士事務所働く独身の母親です。彼女は家庭貯蔵に必要な時間と場所が見つけれませんでした。食糧貯蔵についての活動や集会に参加し、預言者の勧告に従おうと努めましたが、多くの教会員と同様、自分と娘のために備えておく必要があると言われた何百ポンドもの小麦をどうしたらよいか、想像もできませんでした。

ある日、ジェフリーズ姉妹は上手な家庭貯蔵の秘訣を発見しました。それは同じワードの姉妹が提案してくれた、常に少しずつ食糧品を増やすという方法です。

家庭貯蔵用に一定額を予算に入れておき、毎週スーパーで少しだけ多めに購入しました。また、教会の家庭貯蔵センターから、穀物や豆類などの基本食糧品を毎月一つ購入しました。

何年もたった2002年10月、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910 - 2008年)が家庭貯蔵にもっと簡単な方法を取り入れるようにと教会員に勧めたとき、ジェフリーズ姉妹は感動しました。

「少しずつ始めましょう。まずは1週間分の食糧から始め、1か月分、3か月分と増やしていきます。」<sup>1</sup> ヒンクレイ大管長はそう説明しました。

ジェフリーズ姉妹はこのように述べています。「その方法が

素晴らしいのは、貯蔵をこれから始めようとしている家族だけでなく、少しのスペースしかない小さい家やアパートに住む人にも適している点です。ヒンクレイ大管長は、状況に合わせて変更するなら、わたしたちが皆、主の靈感を受けた食糧貯蔵プログラムから恩恵を受けられることをはっきりと認識しておられたのです。」

## 新しい方法

ヒンクレイ大管長の言葉を踏まえ、教会指導者は自立への取り組みを注意深く見直し、家庭貯蔵や貯蓄の考え方を補足する方法を探ることにしました。その結果、教会は「すべての必要なものを用意しなさい——家庭貯蔵」という小冊子を出版しました。この小冊子には緊急事態に対して家庭をどう備えるかについての新しい指針がまとめられ、家庭貯蔵を行うための簡単な4つのステップが示されています。

それは以下のとおりです。

1. 日常の食事の一部を少しずつ貯蔵するようにし、3か月分を貯蔵します。
2. 飲料水を貯蔵します。
3. 毎週少しずつ貯金し、当面の必要に十分な金額まで徐々に増やしていきます。



4. 最初の3つの目標を達成したら、さらに努力するよう勧告されています。状況が許すかぎり、穀物や、豆類、その他の主食類などの基本的な食糧品を1年分貯蔵します。

新しい指針について、管理ビショップのH・デビッド・パートンビショップはこう述べています。「わたしたちの目標は人が自立するのに役立つ、簡単で、費用がかからず、達成可能なプログラムを確立することでした。これらわずかの簡単な手順を紹介することで、いずれはより成果を上げることができると確信しています。」

### 指針1——少しずつ3か月分を貯蔵します。

少しずつ始め、最善を尽くしてください。貯蔵品を増やすために、毎週何品か余分に購入することから始めます。まず1週間分の貯蔵に努め、それから1か月分、次に3か月分と増やしていきます。徐々に貯蔵していくことで、経済的負担を避け、自立への道を歩み始めることができます。

ベネズエラのバレンシアに住むルーゴ家族は、この「少しずつ始め継続する」という新しい方法で大きな実を結びました。総大会の話聞いた後、ベネズエラ・ファルコン地方部の教会員、オマール・ルーゴ兄弟は、自身の家庭貯蔵を始めようと決意しました。家族と話し合ったところ、皆が預言者の勧告に従うことに同意しました。



ルーゴ家族は食糧と水とお金を少しずつ蓄え始めました。最初はほとんど違いが分かりませんでしたが、しばらくすると、かなり蓄えられていることに気づきました。家庭貯蔵を始めて数か月たった後、ベネズエラで労働者のストライキがあり、地元労働者の多くが職を失いました。ルーゴ兄弟も最終的に職を失いました。

しばらくの間、ルーゴ家族は貯金を使って生活しました。7か月後には、貯蔵した食糧に頼ることになりました。ルーゴ兄弟が再び仕事を見つけるまでに2年近くかかりましたが、家

## 家庭貯蔵に関する預言者の勧告



「もし……食糧を蓄え、……負債がゼロだと思ったら、もっと多くの方が、経済的な嵐に翻弄されずに済むことでしょう。現在、多くの人がこの勧告と正反対のことを行っています。少なくとも1年分の負債を負い、食糧貯蔵はゼロなのです。」

トーマス・S・モンソン大管長  
“That Noble Gift—Love at Home,”  
Church News, 2001年5月12日付, 7



「家を所有している人はだれでも、火災保険の必要性を認めるでしょう。火事は起きてほしくないですが、万一そうした災難があったときの備えとして保険料を支払うのです。家族の福祉についても同じことを行うべきです。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)  
「神権を持つ男性たちへ」  
[リアホナ] 2002年11月号, 58



左—写真/デビッド・ニコルマン。右—ブリガム・ヤング/ジョン・ウイットナー・クローン画

族は失業という危機を乗り越えることができました。少しずつ蓄えていたので、いざというときの備えができており、主も祝福してくださいました。

ルーゴ家族のように徐々に家庭貯蔵を行う教会員は、大管長会の勧告に従順に従った分だけ祝福を受けるでしょう。大管長会は次のように勧告しています。「食料と水を蓄え、貯蓄するときには賢くあってください。極端にならないように注意しましょう。例えば、すべての食糧貯蔵を一度に準備するため借金をするのは思慮深いとは言えません。」むしろ、少しずつ続けて行うように提案しています。「注意深く計画し時間をかけるならば、無理のない家庭貯蔵と貯蓄を行うことができるでしょう。」<sup>2</sup>

### 指針2—飲料水を貯蔵します。

いざというとき、飲料水のあるなしが生死を分けるかもしれません。少なくとも安心と不安の差が生じるでしょう。ブラジル・サンパウロステーキに集う川合家族に尋ねてみてください



1936年、大管長会の指示の下に教会福祉プログラムが始まりました。左から—デビッド・O・マッケイ(第二顧問)、ヒーパー・J・グラント(大管長)、J・ルーベン・クラーク・ジュニア(第一顧問)

「ないときのために、あるときに備えましょう。」

大管長会, "Message of the First Presidency,"  
Conference Report, 1942年4月, 89



い。川合家族は20年の間、食糧と水を貯蔵しています。彼らの小さなアパートには、蓄える場所はありませんが、それでもまずは家庭貯蔵をしようと決心しました。

その決断が報われたときのことを川合姉妹はこう語ります。「わたしは出産したばかりで、入院していました。市の水道管に問題があることが分かり、数十万人が水なしの生活を強いられました。家に戻ることに對して何の不安もありませんでした。自分の家には飲料水があると分かっていたので、安心していました」と川合姉妹は述べています。

### 指針3—少しずつ貯金します。

大管長会はこのように勧告しています。「皆さんにお勧めします。世界のどこに住んでいようと、家計の状態に気を配り、困難に備えるようにしてください。支出を抑え……てください。……定期的に少しずつ貯金し、経済的な蓄えを徐々に増やしてください。」<sup>3</sup>

2007年4月の総大会で、管理ビショップリック第二顧問のキース・B・マクマリンビショップはこの原則を強調して、教会員にこう勧めました。「1週間にたとえ硬貨数枚であったとしても、貯金をするべきです。こうして少しずつ目標に向かって近づいていけば、日ならずして、数か月分の貯蔵ができる日



「自分の命をつなぐ方法を身に付けてください。穀物と小麦粉を蓄えてください。それらが手に入らないときのために蓄えてください。」

ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)  
Discourses of Brigham Young,  
ジョン・A・ウイットナー選(1954年), 293

## 長期貯蔵食品の品質保持期間

**学**術調査によると、以下の一般的な貯蔵食品を適切に密封し、室温（華氏75度、摂氏24度）以下で保存するなら、以前の常識よりはるかに長い期間栄養価を保ち、食べられるということが分かりました。これらの食品は、長期間貯蔵された後でも緊急時の生命維持に役立つのです。



食品	品質保持推定年数
小麦	30年以上
白米	30年以上
とうもろこし	30年以上
いんげん豆	30年
薄切り干しりんご	30年
マカロニ	30年
押しオート麦	30年
ポテトフレーク	30年
粉ミルク	20年

も来ることでしょ。」<sup>4</sup>

徐々に貯金することにより、予期せぬ試練に備えることができ、安心と平安をより強く感じるでしょう。

### 指針4——大量の食糧貯蔵が許される地域に住んでいる場合、少しずつ増やして1年分の食糧をためましょう。

1年分の貯蔵の必要性について、小冊子『すべての必要なものを用意しなさい』にはこのように書かれています。「少しずつ増やして1年分の食糧をためましょう。長期間の保存が可能なら、飢えをしのいでくれる麦や米、豆類などを保存してください。」<sup>5</sup>

長期間分の貯蔵をすることは、思うより簡単です。ブリガム・ヤング大学の栄養・食事療法・食品科学科のオスカー・バイク博士と同僚たちは、食物の長期保存について綿密な研究を行いました。その結果、ある驚くべき発見をしました。適切に収納し保存した水分の少ない食物は、20年から30年、あるいはそれ以上貯蔵した後も、味と栄養価のほとんどが失われないということです。それは、それまでの予想よりはるかに長い期間です。

つまり特定の食糧については、回転させることを気にせず長期間保存できるのです。教会員は、ほかに食べるものが何もないとき、それらの食糧が命をつないでくれるという安心感を得ることができます。

### 今から備えを始める

「恐らく、これまでは1年分の食糧貯蔵という考えにおじけづく人もいたでしょうし、それが違法である地域さえあったかもしれませんが」と、教会福祉サービス実務運営ディレクターのデニス・リファースは述べます。「しかし、この新しい方法がわたしたちに求めているのは、最善を尽くすことだけです。たとえ、毎週缶詰め1、2個しか蓄えられなくても、それでもよいのです。預言者が求めることであれば、わたしたちは命じられたことを果たす方法を見つけることができ、祝福を受けるでしょう。」

「この新しいプログラムは、すべての人にとって達成可能です」とバートンビショップは述べています。「最初のステップは、まず始めることです。次のステップは、続けることです。どれほど早く蓄えるかは、それほど重要ではありません。重要なのは、自分の能力に応じて貯蔵を始め、継続することです。」■

### 注

1. ゴードン・B・ヒンクレ「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号、58
2. 『すべての必要なものを用意しなさい——家庭貯蔵』1
3. 『すべての必要なものを用意しなさい——財政管理』1
4. キース・B・マクマリン「蓄える」『リアホナ』2007年5月号、53
5. 『すべての必要なものを用意しなさい——家庭貯蔵』2

# 日の栄えに至る自立の本質

マリオン・G・ロムニー管長（1897 - 1988年）

マリオン・G・ロムニーは1951年10月11日、使徒に聖任されました。ロムニー管長は、ハロルド・B・リー大管長とスペンサー・W・キンボール大管長の第二顧問、後にキンボール大管長の第一顧問として働きました。キンボール大管長の死後、1985年11月10日に十二使徒定員会に戻って定員会会長となり、1988年5月20日に90歳で死去しました。ロムニー管長は、1982年10月の総大会でこの説教を話したとき、大管長会第二顧問として奉仕していました。この記事はその大会説教の編集版であり、1984年に初版が出版されています。

わたしは、<sup>きよ</sup>聖い預言者たちが教えてきた簡潔な真理を大切にしており、それらの真理について幾ら話しても飽きることがありません。人は自活し、それによって自立するよう、時の初めから勧告されてきました。この原則が自由そのものと密接な関連があることを知れば、主がなぜこれほどまで

にこの原則を強調されるのか、その理由を理解することは簡単です。

このテーマに関して、アルバート・E・ポーエン長老はこう語っています。「……教会は、働く力のある人をいつまでも他に依存させておく制度を、それがどのようなものであれ、よしとはせず、与えることの真の効用と役割とは、人が自立し、それにより自由となれるよう助けることであり、主張しています。」<sup>1</sup>

現在、社会の中では、善意ある人の手によって、援助を必要とする人を助ける数多くのプログラムが実施されています。しかし、こうしたプログラムの多くが、「自立を助ける」のではなく、単に「援助する」だけの、先の見通しを欠いた目標を掲げています。わたしたちは、働く力のある人が自立できるように、いつも努力しなければなりません。



人間は  
自立しなければ、  
自ら選択し  
行動する者となることは  
できません。  
そのように考えると、  
独立や自立は  
わたしたちの  
霊的成長を左右する  
重要な鍵であることが  
理解できます。



## 愚かなカモメ

わたしは以前に『リーダーズダイジェスト』(Reader's Digest)から次の記事を切り取っておきました。そこにはこう書かれています。

「優しい人の多い隣町のセントオーガステインでは、おびただしい数のカモメが豊かな食物を前に飢えている。魚は豊富にいるが、カモメは魚を取る方法を知らないのである。何世代もの間、カモメたちはエビ漁船が網から投げしてくれるくずを当てにして生きていた。ところが、その漁船団がほかの漁場へと移ってしまったのである。……

エビ漁船は……カモメに、生息しやすい格好の場所を提供していた。親カモメはわざわざ自分で魚の取り方を学ぼうとはしなかったし、幼いカモメに魚を取ることを教えようともしなかった。代わりに、エビの詰まった網の所へ連れて行ったのである。

思いのままに大空を飛び、自由の象徴とも言われるあのカモメが、『労せずして得る』という誘惑に負けたために、今や飢えて死のうとしていいる。施し物を得るために自立という美德を犠牲にしたのである。

このカモメに似た人間が大勢いる。合衆国政府という『エビ漁船』が用いる税金の網からおいしい残り物をついばむことを正当であると思う人々である。しかし、政府の備蓄が底を突いたらどうなるだろうか。次の世代となる子供たちはどうなるのだろうか。

愚かなカモメにならないようにしようではないか。わたしたちは……自給自足する能力や、必要なものを作り出す技能、節約の精神、それに真に自立を愛する心を持ち続けなければならない。<sup>2</sup>

むさぼることや自らの働きによらない利益を得ることが、現代社会に定着しています。財産をさらに増やす力を持っている裕福な人までが、政府に対して利益の保証を求め<sup>あり</sup>ます。選挙となれば、立候補者は政府の予算を有権者のためにどう使うかを公約し、それによって当選が決まることがしばしばあります。こうした風潮が一般に受け入れられ、実際に行われるようになれば、いかなる社会であれ、そこに



住む人々は奴隷と化してしまうでしょう。

わたしたちは政府の庇護<sup>ひご</sup>を受けるだけの者となるわけにはいきません。たとえそうする合法的権利があるとしてもです。そこには自尊心をはじめ、政治的、物質的、霊的な自立を失うというあまりにも大きな犠牲が伴うからです。

一部の国では、勤労所得と不労所得を区別するのが非常に難しい状況にあります。しかし、原則はいずれの国においても同じです。すなわち、自立を目指して努力し、生活を他に依存してはならないということです。

過ちを犯しているのは政府だけではありません。多くの親も、家族の蓄えから与えるばかりで子供を甘やかし、「愚かなカモメ」に仕立てていないでしょうか。事実、そのような親の行動は、政府のいかなる対策にも増して深刻な害を及ぼす可能性があります。

ビショップや神権指導者が、ワードの会員を「愚かなカモメ」に仕立てる過ちを犯していることもあります。一部の教会員は、経済的、情緒的にビショップに依存するようになっていいます。その出所がどこであろうと、施しは施しです。教会や家族の取る行動はすべて、会員や子供たちを自立へと導くものでなければなりません。政府の計画は必ずしもわたしたちの思いどおりになるわけではありません。しかし自分の家庭や自分たちの会衆であれば、自分たちで管理できます。もし、これらの原則を教えて実践するならば、いかなる国であろうと政府の対策に潜む弊害に立ち向かう大きな力となることができるでしょう。

確かに、中には、自らの力ではどうにもならない理由で、自

立できない人がいます。ヘンリー・D・モイル管長は、こうした人々のことを心に描きながら、次のように語りました。

「この偉大な原則は、助けの必要な人や貧しい人に対する当然の援助を否定するものではありません。働く能力がまったくない人、老人、病人は配慮の行き届いた世話を受けますが、働く力のある人は、自らの努力によって道を開くことができるのであれば、他に依存しないよう最善を尽くさなければなりません。逆境を一時的なものとしてとらえ、自分の力を信じて正直に働くのです。……

確固たる信仰と真の勇気を持ち、不動の決意を抱き、胸の内に自立への愛を燃え立たせ、自らの力に誇りを抱く人は、乗り越えられない障害に出遭うことなどまずめったに起こりません。」<sup>3</sup>

### 霊的自立

ここで特に重要な真実について話したいと思います。自立は目的ではなく、目的に至るための手段です。完全に自立していながら、ほか

の望ましい特質をことごとく欠いている場合も十分にあります。富を得て他人の援助をまったく必要としなくなることもあるでしょう。しかし、何らかの霊的な目標が伴わないような自立は、その人の魂をむしばむことになりかねません。

教会の福祉プログラムは霊的なものです。1936年、このプログラムが始まったとき、デビッド・O・マッケイ大管長は、次のような洞察に満ちた所見を述べました。

「わたしたちは、霊性を育成することに最大の関心を寄せなければなりません。霊性とは人が身に付けることのできる最高の特質であり、『人間を万物の霊長たらしめる至高の賜物』すなわち人間に備わっている天与の性質のことなのです。それはまた、己に打ち勝ち無限無窮の御方と心を通わすことのできる意識でもあります。ただ霊性だけが、人生で最高の満足をもたらすことができるのです。

衣類の乏しい人々に衣類を提供し、食べ物に事欠く人々に食べ物を与え、仕事がないために絶望と闘っている人々に働く場所を与えるこ

**教** 会や  
家族の取る  
行動はすべて、  
会員や子供たちを  
自立へと導くもの  
でなければなりません。



# だ

れにでも  
自立している  
部分と  
依存している部分とが  
あります。  
ですからわたしたちは、  
力のある分野においては  
人を助ける努力を  
しなければなりません。

とは大切なことです。しかし、最終的には教会の〔福祉プログラム〕がもたらす最大の祝福は、霊的なものです。外見的には、すべての行為が物質的な事柄に向けられているように思えるかもしれませんが。衣服の再生、果実や野菜の缶詰作り、食料品の貯蔵、入植のための肥沃な土地の選定、これは皆、まったくこの世的な事柄に見えます。しかし、底に流れているものは、そしてそれらの行為を促し聖めているものは、まさに霊性という要素なのです。』<sup>4</sup>

教義と聖約第29章34から35節には、すべての戒めは霊にかかわるもので、現世の戒めというものは存在しないと書かれています。また、人間は「自ら選択し行動する」者となることができるとも書いてあります。しかし、人間は自立しなければ、

自ら選択し行動する者となることはできません。そのように考えると、独立や自立はわたしたちの霊的成長を左右する重要な鍵であることが理解できます。自立を脅かされるような状況に陥った人は、自由も脅かされていることに気づくでしょう。すなわち、依存度が高まれば、行動する自由がたちまち失われていくことに気づくのです。

今まで話してきたことから分かるように、自立は、行動の完全な自由を得るための前提条件です。しかし同時に、その自由を使って正しい選択をしないかぎり、自立の中に霊的なものは存在しないということも理解しました。それでは、霊的な成長

を遂げるには、自立した後何をするにせよよいのでしょうか。……

自立を霊的なものとする鍵は、神の戒めを守るために自由を使うことです。聖文の中で明らかに命じられているように、援助を必要とする人々に与えることは、持てる者の義務です。

## 人を助ける

ヤコブはニーファイの民に向かって次のように言いました。

「同胞を自分自身のように思いなさい。そして、すべての人と親しくし、あなたがたのように彼らも豊かになれるよう、所有物を惜しみなく与えなさい。

しかし、富を求める前に神の王国を求めなさい。

キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目的は、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与え、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行うことである。』(モルモン書ヤコブ2:17-19)

主は今日の神権時代において、教会が発足してわずか10か月のときに次のように言われました。

「あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである。

また見よ、あなたは貧しい者を思い起こし、……彼らの扶養のためにあなたの財産のうちから奉獻するであろう。』(教義と聖約42:29-30)

その同じ月に、主は再びこの問題について話されました。教会員が多少怠慢であったことは明らかです。彼らは即座に行動に移していませんでした。

「見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは貧しい者と乏しい者を訪れ、彼らに必要なものを与え……なければならない。』(教義と聖約44:6)

これらのことを行うのは自分たちのためであるのに、絶えず主から戒めていただか

ればならないというのは、何か矛盾しています。主は言われました。「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。」(マタイ 10:39) わたしたちは人に仕え、人を助けることによって自分の命を失います。そうするとき、ただ一つの永遠に尽きることのない真の喜びを味わうのです。奉仕とは、日の栄えの王国に入る資格を勝ち得るために、この地上で我慢して行うものではありません。日の栄えの王国における昇栄の生活そのものが奉仕なのです。

ああ、わたしたちの心が清められて、これらすべてのことが自然に行われるようになる時、それは何と輝かしい日になることでしょう。その日には戒めなど必要ありません。なぜなら、わたしたちはその日が来るまでに、真の幸福は無私の奉仕に携わるときに初めてもたらされることを自ら経験しているからです。

奉仕に必要なものが自立であり、また奉仕とは神性そのものであると理解するとき、自立がいかに重要なものとなるか分かりますか。自立していなければ、奉仕したいという持って生まれた願いを行動に移すことはできません。何も持っていなければ、どうして与えることができるでしょうか。食糧棚が空では飢えた人に食物を施すことはできません。財布が空ではお金に困っている人を援助することはできません。心が飢え渴いては、人を理解し支えることはできません。学んでいなければ、教えることはできません。そして何よりも大切なことは、霊的に弱い人からは、霊的な導きは生まれえないということです。

豊かな人と貧しい人は、相互に依存しています。つまり、与えるという行動の過程は、貧しい人を強めて豊かな人を謙虚にし、両者はともに聖められます。貧しい人は貧困という束縛と制限から解放されて自由の身となり、この世的にも霊的にも、自身の最大の可能性へと到達することができるのです。また豊かな人は、余剰を分け与えることにより、与えるという永遠の原則を実践するのです。立ち直り自立した人は、助けを必要とする人々に手を差し伸べます。こうして奉仕の輪は広がっていきます。



だれにでも自立している部分と依存している部分とがあります。ですからわたしたちは、力のある分野においては人を助ける努力をしなければならないと同時に、援助を受ける必要のあるときには快く受け入れ、プライドにこだわって助けを拒むことのないようにしなければなりません。助けを拒むことは、助けを与えようとしている人から、聖められる体験を奪うことになるのです。

教会の使命に関して強調されている3つの側面の一つは、聖徒を完全な者とすることです。これこそ福祉プログラムの目的です。これは世の終わりの日のプログラムではなく、今、ここにいるわたしたちのためのプログラムです。なぜなら今がわたしたちの生活を完全なものとする時だからです。わたしたちがこれらの真理を固く守っていくことができますように。■

小見出しは追加。英文のつづり、表記法、引用表記法は他の記事と統一させるために変更しています。

#### 注

1. アルバート・E・ボーエン「教会福祉プログラム」(福音の教義クラス教科課程、1946年)、77
2. "Fable of the Gullible Gull," *Reader's Digest*, 1950年10月号、32
3. ヘンリー・D・モイル, *Conference Report*, 1948年4月、5
4. デビッド・O・マッケイ, *Conference Report*, 1936年10月、103

# 10人のおとめのたとえ

このたとえで救い主は、どのように再臨に備えればよいかを教えておられます。

## こ

この終わりの時に主は言われました。「忠実であり、常に祈り、あなたがたのランプの芯しんを切りそろえて火をともし、油を備えて、花婿が来るときに用意ができてるようにしなさい。」(教義と聖約33:17) この勧告はあの10人のおとめのたとえについて述べられたもので、キリストの再臨にどのように備えるべきかを明らかにしています(マタイ25:1-13参照)。以下の説明は、このたとえを研究し、意味を深く考えるときに役立つでしょう。



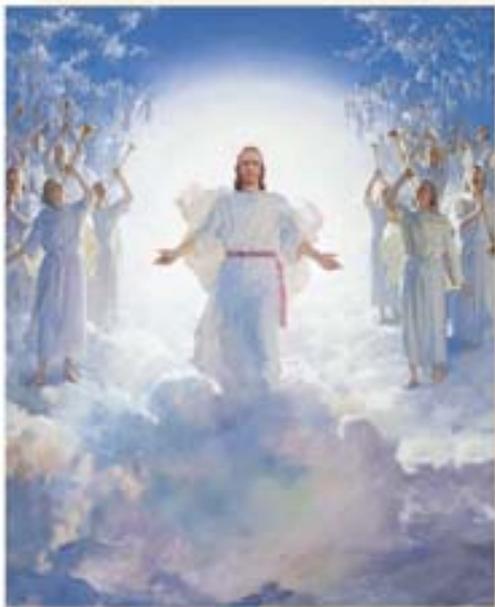
火口みぐちは鋳型に入れて作りました。



## 10人のおとめ

ユダヤには、夜になって花婿が花嫁の家にやって来る習慣があり、家の中では付添いの娘たちが花嫁の世話をしていました。花婿の到来が告げ知らされると、祝宴を開く家まで道を照らすため、娘たちは明かりを持って外に出ます。このたとえに登場するおとめは教会員、花婿はキリストを表しています。主はジョセフ・スミスに、賢いおとめとは「真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御霊を受け、そして欺かれなかった」者を指すと述べておられます(教義と聖約45:57)。

亜麻の織維またはイグサでできた灯芯を火口に置き、その後オリーブ油をいっぱい注ぎます。灯芯が油を吸収するのを待って、火をつけました。



## 花婿

聖書では、主が来臨される様子を婚礼のたとえを用いて描かれています(イザヤ62:5;マタイ22:1-14参照)。花婿の到着を告げることはユダヤ人の婚礼行事の一部でした。婚礼は、薄暗くなり明かりをともし夕方に始まるのが普通であったために、10人のおとめは花婿の到着



ランプに火をともしたのは夕暮れでした。



花婿は真夜中にやって来ました。

が真夜中になるとは思ってもいず、到着の知らせは突然やって来ました。

キリストの再臨がいつになるのか、わたしたちは分かりません。しかし、遅い早いにかかわらず、いつキリストが来られてもいように備える必要があります。

絵「再臨」ハリ・アンダーソン画、© 50  
ダン・バートン写真/マシコ・ライナー



### 入れ物

たとえに出てくる入れ物は、予備の油を蓄えておく容器でした。思慮深いとは、信仰と証、それに御霊を余分に蓄えて、予期せぬ事態に対処できる準備が整っている状態にあることを意味します。わたしたちは、どうかやっつけていけるだけの油があると勝手に思ってしまうことがあります。しかし、救い主に従うとは、単にどうかやっつけていく以上の意味があります。忍耐、信仰、そして証が試されるときに備えて、絶えず主に近づくことと努力するということなのです。

### 明かり

イエスの時代にユダヤ人が用いたオイルランプは、ヘロデ王にちなんでヘロデランプと呼ばれていました。このランプがあれば、どこへでも明かりを持ち運ぶことができました。同様に、わたしたちも福音の光を持ち運ばなければなりません(マタイ 5: 14-16参照)。



通常ヘロデランプは、約2時間燃え続けます。



取っ手の部分はまず手で形を整えて、それからランプに付けました。

ランプの**本体**は粘土で作り、ろくろで形を整えました。

### 一滴ずつ



「**聖餐会**に出席することで、年月をかけて油は一滴一滴とわたしたちのランプにたまっていきます。断食、家族の祈り、ホームティーチング、肉体的な欲望のコントロール、福音を**宣**べ伝える、聖文の研究、これら**献身的かつ従順な**行いの一つ一つが、一滴ずつ蓄えられていくのです。親切な行い、**什分の一**とささげ物、**慎み深い**思いと行動、永遠の**聖約**によって結ばれる**結婚**、これらもまた油を蓄える大切な方法で、真夜中であっても空のランプに油を補充することができます。」

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)  
*Faith Precedes the Miracle* (1972年), 256



### 油

オリーブは、洗浄し苦味を取るため最初に水に浸し、その後、つぶして油を搾り出します。オリーブ油は地中海地域の至る所で生産され、古代においては用途が広く、食用、料理用、香りづけ、傷薬、化粧品や石けんの材料、そしてランプの燃料として用いられました。

このたとえに出てくる油とは、**信仰と証**、清さと**献身**、善い行い、戒めを守ること、つまり、生活のあらゆる面

「[自分たち]の導き手として聖なる御霊を受け」ことを表しています(教義と聖約45:57)。

思慮深いおとめたちは思慮の浅いおとめたちに油を分けることができませんでした。「**霊的な備え**という油は、人に分けてあげられるたくいものではない」からです(マービン・J・アシュトン, "A Time of Urgency," *Ensign*, 1974年5月号, 36)。



# 信仰によって歩く……

## 見えるものによらず

教会機関誌

アダム・C・オルソン

**ダ**ギー・ラミレス・デ・バルガス姉妹は目が不自由になって15年になります。しかし、いろいろな意味で、彼女はかなりよく見えます。「物理的な視力は人を楽しませてくれます」と70歳になる彼女は言います。「でも、それが霊的な視力の妨げとなることもあります。」

ダギー姉妹は両目の白内障手術をした後、もうまくはくり網膜剥離のために視力を失いました。

「最初は、何をやるにつけても戸惑いました」と彼女は言います。「でも、今ではうまくやれるようになりました。アイロンもかけられますし、縫い物も、料理もできます。ただ、わたしが料理するときにはだれも台所に入って来ません」と笑います。「大きな包丁を何本か使いますからね。」

ダギー姉妹は、これからも物理的に自立した生活が続けられるのかどうか心配していましたが、霊的にはいつも自立しようとしていました。人の知識に頼るのではなく、キリストに対する自分自身の証の光あかしに従って生きようとしたのです。

### 福音の光

現在、チリ・ビニャデルマル・アーチュパラスステーキ、ミラフロレスワードの会員であるダギー姉妹は、教会員となる前の



チリのビニャデルマルに住む

ダギー姉妹は、

物理的にも霊的にも

自立する模範を示しています。

1962年、まだ結婚したばかりで、どの教会が正しいのか迷っていました。

ある夜、夢を見ました。世界中からやって来た人たちの夢で、珍しい白い服が見えました。翌日、掃除手伝いの仕事先で、夢で見たのと同じような白い服が物干しロープに干してあることに気づきました。

雇い主の話では、その白い服はモルモン教会の神殿と関係があるということでした。間もなくダギー姉妹は宣教師たちと会うことになりました。福音の光に彼女の霊的な目を開かせるために世界中からやって来た宣教師でした。

### みことば御言葉に照らされた道

ダギー姉妹はイエス・キリストの福音を愛しています。目が不自由になるま

で、聖文を熱心に読んでいました。

「視力を失ったとき、わたしは主の御言葉を忘れることがないようにと祈りました」と当時のことを振り返ります。彼女にとって、主の言葉を覚えておくことは霊的な視力の象徴として大切なことだったのです。

ダギー姉妹は、現在、以前とは異なる方法で福音を学ばなければなりません。次の言葉を信じています。「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇119:105) また彼女は、救い主の次の約束が真実であることを示す生ける模範です。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、



やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ8:12)

夫のホワン兄弟によれば、主はダギー姉妹の誠実な願いを聞き届けられたということです。「彼女は物事を心でよく理解することができます。その気になれば何時間でも話し続けられるんです。」こう言って苦笑いをします。

「求めよ、そうすれば与えられるであろう。」そう彼女は答えます。「わたしの霊の目はまだしっかりと見えます。」

### 神の業が現れるため

視力を失って以来、物質的な自立と霊的な自立の両方を保とうと

したダギー姉妹の経験は、ヨハネの福音書に登場する目の不自由な男性を思い出させます。この男性について弟子たちは次のように尋ねました。「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。」

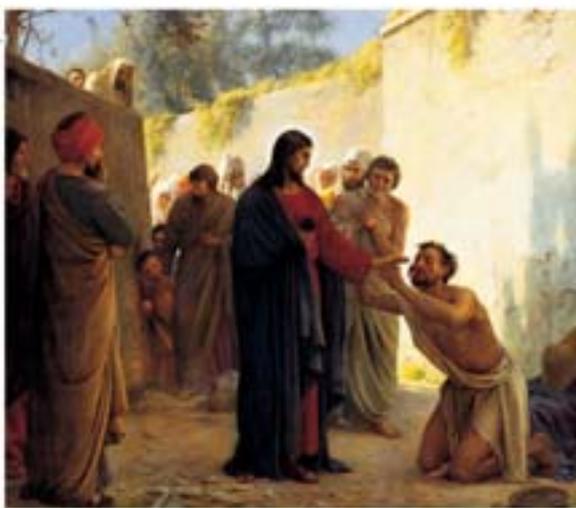
救い主はお答えになりました。「本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。」(ヨハネ9:2-3)

神の業はダギー姉妹の生活のうえに現れました。視力をなくしたにもかかわらず多くの奇跡を目の当たりにし、次のように証できるのです。「わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。」(2コリント5:7)

ある日曜日の夕方、ホームティーチャーが訪ねて来ました。それは、ダギー家族が仕事をなくし苦しい日々を過ごしていた時期でした。その夜家にあったのは、カップ半分の米、少量の料理用油、そして小さなトマトが2個だけでした。それでもこの忠実な二人のホームティーチャーに感謝を込めて、ダギー姉妹は夕食を食べて行くように誘ったのです。

「娘はわたしが皆の分をどうやって作るのか尋ねました。」ダギー姉妹はそのときのことを振り返ります。ダギー姉妹は娘に、食卓に皿を並べるよう言いました。それから台所へ行って祈りました。「主よ、あなた様は5,000人に食物をお与えになりました。わたしがお願いしているのはたった7人分です。」

「そのときあったお米で7人が食べられたのです」と彼女は証します。



「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。」  
イエスはお答えになりました。  
「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。」  
(ヨハネ9:2-3)

### 主の驚くべき光に感謝をささげる

物理的な視力は失っても、もっとすばらしい光で物を見ることができるとダギー姉妹は知っています。

イザヤは次のように教えています。「昼は、もはや太陽があなたの光とならず、夜も月が輝いてあなたを照さず、主はとこしえにあなたの光となり、あなたの神はあなたの栄えとなられる。」(イザヤ60:19)

「イエスは、見る能力はあっても見えない人々のことについて話されました。それは今日も変わりません」とダギー姉妹は語ります。「周囲では至る所で奇跡が起こって

いるのに、それを見ない人があまりにも多いのです。」

ダギー姉妹はたくさんの祝福に感謝しています。また、「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、……語り伝える」というペテロの勧告に従おうと努力しています(1ペテロ2:9)。

「わたしは満足しています。天の御父はすばらしい伴侶を下さり、わたしたちは神殿に参入し、結び固めを受けました」と彼女は語ります。「わたしの人生は奇跡に満ちています。霊的には、わたしは物をちゃんと見ることができるのです。」■



### 個人の啓示

「もしも情緒面の自立と霊的な自立ができなくなれば、物質的に依存しているのと同じか、それ以上に弱くなってしまふ可能性があります。」

また、注意していないと、個人の啓示を受ける力をも失ってしまうでしょう。」

十二使徒定員会会長 ボイド・K・バックナー会長  
「主の方法によって情緒面の問題を解決する」  
『聖徒の道』1978年10月号、145



# 主の救いの業に 焦点を当てる



中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹が  
教会機関誌に、  
扶助協会についての証<sup>あかし</sup>を語ってくれました。

**救い主の業を進めていくうえで扶助協会にはどのような役割がありますか。**

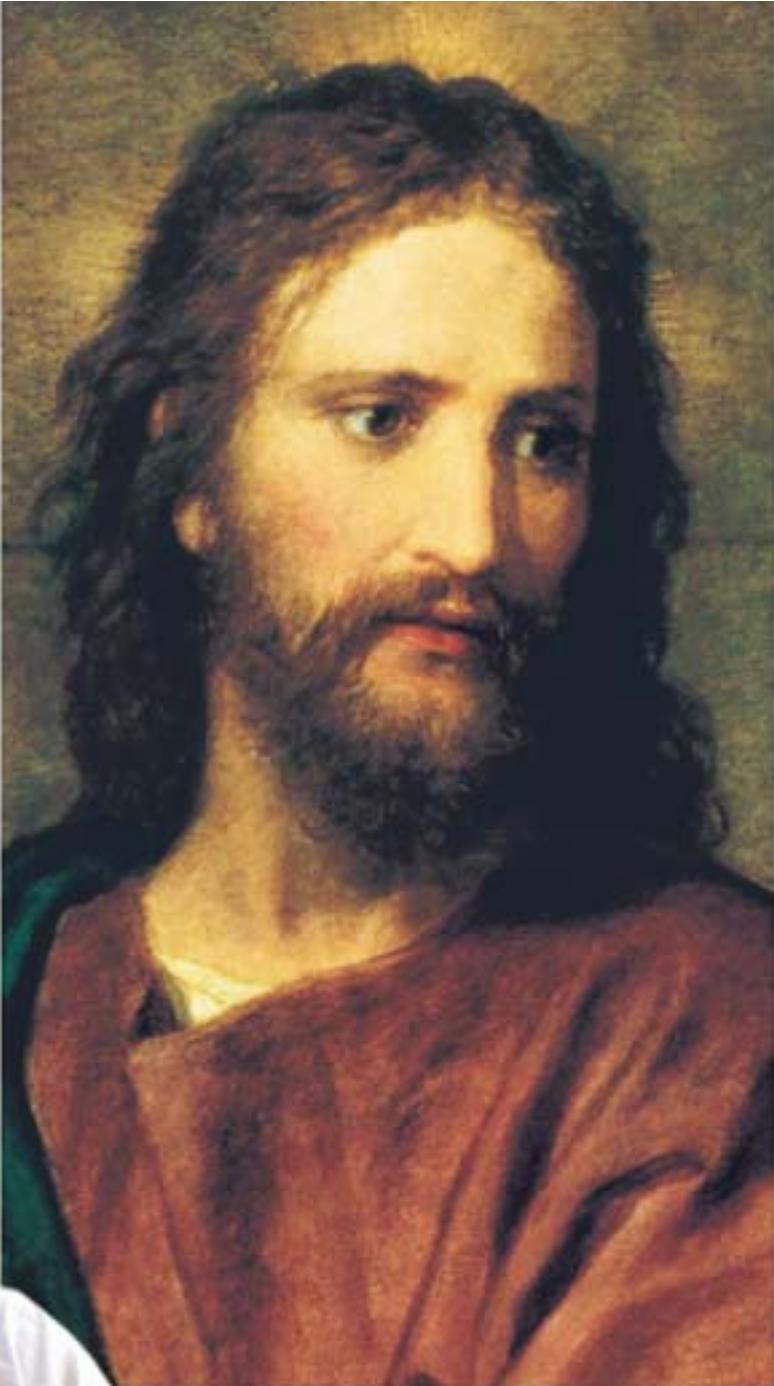
ベック姉妹——わたしたちが扶助協会の姉妹として一致しているのは、何よりもまずイエス・キリストへの信仰があるからです。イエス・キリストがわたしたちの指導者であり模範です。わたしはイエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>が現実のものであると証します。イエス・キリストは生きておられ、主の力が確かにあることを証します。

末日聖徒として、わたしたちはキリストのみもとに行くことを願っています。ジョセフ・スミスは扶助協会を組織するに当たり、女性には、貧しい人々を世話するだけでなく、人を救う使命もあると言いました。<sup>1</sup> この使命は今も変わっていません。わたしたちは主の救いの業、すなわち「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」業の助け手となる使命があるのです（モーセ1：39）。

そのためまずできることは、祈りを通して自らを霊的に強め、聖文の知識に関して自立することです。主が与えてくださった儀式、聖約、戒めを喜んで受け入れます。

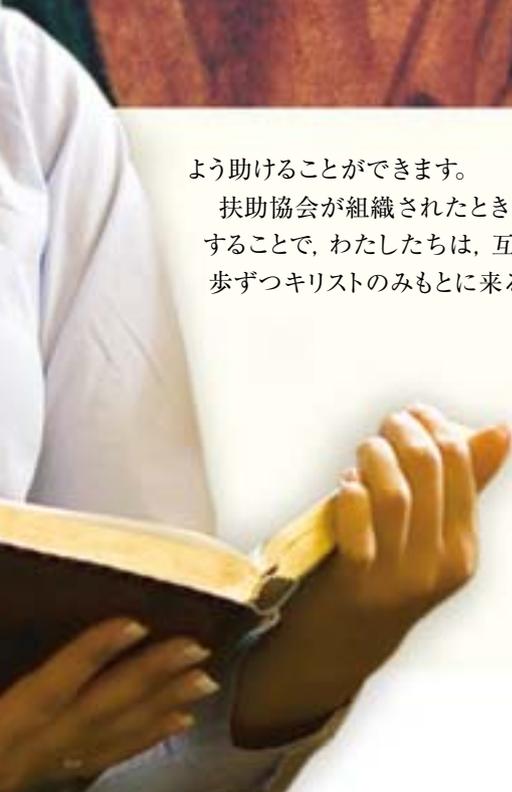
さらには散らされたイスラエルの集合の業を助けることができます。宣教師を育てるために力を尽くし、福音を分かち合い、バプテスマを受けた人たちが定着できるように助ける義務があります。神殿に参入できるよう、自分自身と家族を備える責任があります。家族歴史を集め、主の子供たちが永遠の家族として結び固められる





よう助けることができます。

扶助協会が組織されたときに意図された業を実行することで、わたしたちは、互いに助け合いながら一歩ずつキリストのみもとに来ることができるのです。



### 忙しい扶助協会の姉妹たちは、どうすればこれらをすべて行えるのでしょうか。

ベック姉妹——この教会のすばらしい女性たちには、これだけでなくさらに多くのことをする力があります。もちろん一度にすべてができるわけではありません。だからこそ、与えられている手段と時間を用いるに際しては、それらが主の業に最も役立つように優先順位を設けなければならないのです。

姉妹たちは、それぞれ、聖霊の導きを得られるように願い求める必要があります。主の業を助けている姉妹であれば、主の助けを受ける資格があります。

### 扶助協会の大切さを知るきっかけとなったのはどのようなことですか。

ベック姉妹——幼いころ、父はブラジルに一つしかない伝道部で会長として働いていました。会員は4,000人足らずでしたが、そのほとんどが可能性にあふれてはいても、指導者として働く準備はまだできていませんでした。扶助協会もほんの一握りの支部にしかありませんでした。

母は伝道部内に扶助協会を組織するようにとの召しを受けました。母はポルトガル語がまったく話せず、手引きもありませんでした。でも母には福音と扶助協会に対する証がありました。二人の顧問と最初にしたことは、訪問教師として働くためにはどうすればよいか姉妹たちが理解できるように助けることでした。

訓練はサンパウロにあった小さな支部で始まりました。7人の謙遜な女性たちが集会に出席しました。母の顧問であったブラジル人女性が姉妹たちにあいさつの言葉を述べました。祈りの後で立ち上がったその姉妹は緊張で手が震えていましたが、家庭訪問についての説明を読み上げました。次に母が立ちました。彼女が知っているポルトガル語の文章は4つだけです。「わたしは神が生きておられることを知っています。わたしはイエスがキリストであられることを知っています。わたしはこの教会に生ける預言者がいることを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。」集会は終わりました。母はその場にいた女性たちを抱き、別れのあいさつをしました。

偉大な業も始まりはそれほどささやかなものだったので。その後、扶助協会はブラジルのすべての支部に確立しました。ステークの設立と、南アメリカ最初の神殿建設に当たっても、姉妹たちの努力がありました。姉妹たちは儀式と聖約、人を救う方法について学びました。

ブラジルの教会員数が現在100万人を超えているのは、一

つには、扶助協会の姉妹たちが主の業の発展を助けたためです。ブラジルの姉妹たちのように、わたしたちは自らの役割を果たさなければなりません。だれもわたしたちに代わって果たすことはできません。王国を建設するというわたしたちの責任は、ほかのだれにも任せることができないのです。これはわたしたちの業です。この業に加わりましょう。信仰を築き、家族を強め、慰めをもたらすという点で秀でた者となりましょう。

**扶助協会の活動の焦点を主の救いの業に当てることで、どのような祝福が得られるのでしょうか。**

ベック姉妹——人に救いと祝福をもたらす主の業を行うときに、わたしたちは一つとなり、天からの祝福を祈り求めることができます。わたしは、この教会の女性たちが力強く結ばれる日を心に描いています。大切なことに焦点を当て、取るに足りないことをわきに置けば、自信が付き、霊が高められると信じています。物事にもっとうまく対処でき、重荷も軽く感じるでしょう。もちろん忙しいことには変わりはないでしょうが、それは救いの業を行う忙しさなのです。

**問題の多い現代社会で正しい物の見方を保っていくために、扶助協会からどのような助けが得られるのでしょうか。**

ベック姉妹——扶助協会はこの危険な時代にあって、わたしたちを守る助けとなっています。日曜日に行われるレッスン、扶助協会の活動と集会、そして家庭訪問を通じて、わたしたちは主の業を行い、個人と家族を強めています。

わたしたちは離婚、不従順、負債、不況、無力感、依存症など、様々な問題に直面しています。しかし同時に、主の御霊が豊かに注がれる時代に生きているということも忘れてはなりません。福音が全世界に宣べ伝えられる時代、イスラエルの子らが集められる時代、神殿が地上に存在する時代、神権の聖約と儀式によって守られている時代に生きているのです。

主が御覧になることをわたしたちも見ることができるよう、さらに広い視野を得ようと努力しなければなりません。この業がどれほど広大なものか、わたしたちはまだ十分には理解していません。わたしたちは人を惑わそうと固く決意している敵を打ち負かすことができます。わたしたちの家庭は避け所となることができますし、そうなる必要があるのです。

**扶助協会で行われる日曜日のレッスンにはどのような役割がありますか。**

ベック姉妹——日曜日の集会は、福音の教義とともに学ぶ



ことが目的です。初等協会、若い女性、その他の分野で働くよう召された女性も、それぞれの召しを通じて福音の教義を学んでいます。扶助協会の教科課程はとても大切です。ですから開会行事は短く敬虔に行い、後に続く福音学習に御霊が注がれるようにしなければなりません。

扶助協会では『歴代大管長の教え』を学んでいます。これは、預言者の教えを載せた一連のテキストで、教会の男性も女性も個人の蔵書とする



ことができるようになっていきます。預言者の言葉は明瞭で靈感にあふれています。預言者の言葉を学ぶときに、消極的で無関心な態度は執れませんし、執ってはなりません。

現在わたしたちは、預言者ジョセフ・スミスの業績を収集した最高のテキストを使って彼の言葉を学んでいます。このテキストは、何年にも及ぶ研究と入念な吟味を重ねた結果出来上がったものです。聖文と教会機関誌を使って話し合いを豊かにすることができますから、ほかの資料、特に、教会が出したものではない資料を使って預言者の言葉を補足する必要はありません。

教師の皆さんは本質を突く質問をし、自由に意見を交わすように

促してください。御霊が教師です。ですから、毎回日曜日のレッスンに御霊が伴うよう準備しなければなりません。

**平日に開かれる扶助協会の集会にはどのような役割があるのでしょうか。**

ベック姉妹——平日に開かれる扶助協会の集会は、救いの教義を実践する場です。協力し合うことによって、一致と姉妹同士のきずなが自然に生まれます。例えば、福音を分かち合う方法や将来の宣教師を備える方法について学ぶことができます。家族歴史を通して互いについて知ることができます。掃除、整理、料理、裁縫、園芸などホームメイキングの技術を伸ばすことで、家庭の中に養いと靈的な成長を促す雰囲気が生み出せるようになります。

わたしたちは、教育、キャリアアップ、さらには急速に変化する技術への適応といったこの世的な事柄に関しても自立することを学ばなければなりません。食料を貯蔵し、予算の立て方を知る必要もあります。肉体と精神がさらに元気になるよう努力する必要もあります。

これらの集会や活動を計画するとき、時間、活動力、そして奉献された基金などの貴重な資源が自分たちにどれほどあるかを把握する必要があります。家庭で福音に従った生活を送り、主の業を進めるためにだけ、これらの資源を活用してください。

**若い女性が扶助協会になじめるように、わたしたちはどのような助けができますか。**

ベック姉妹——才能豊かな若い女性たちは、青少年から大人への橋を渡っている最中です。そこで、扶助協会の姉妹たちは、彼女たちがだれ一人としていなくなることをないようにする務めがあります。

若い女性はバプテスマの聖約を守るように教えられてきました。そして扶助協会では、神殿の聖約を交わす備えができるように助けています。扶助協会の18歳の姉妹たちは、委員会で議長を務め、技術を教え、伝道活動を助け、訪問教師として働き、家族歴史および神殿活動に参加するなど、人を救うすべての業にかかわることができます。

**家庭訪問にはどのような役割がありますか。**

ベック姉妹——救い主に代わって教え導くのが訪問教師です。わたしたちの手は救い主の御手、わたしたちの愛は

救い主の愛、わたしたちの働きは救い主の働きです。<sup>2</sup> 良い訪問教師は自分が訪問する姉妹たちを知っています。姉妹たちを愛し、仕え、御霊によって福音を学べるように助けます。また、家庭と生活を強めることに力を傾けます。人を見守り、力づけることほど偉大な特権はほかにありません。それはまさに救いの業だからです。

### どうすれば扶助協会は世界を変えることができるでしょうか。

ベック姉妹——西アフリカの女性閣僚や女性議員の二団と話をすることがありました。教会がアフリカの女性たちをどのように助けているかと尋ねられ、それぞれの国に扶助協会という女性のグループを数多く組織していることを説明しました。教会は扶助協会の会長たちに『教会指導手引き』を送り、女性たちはしばしば集会を開き、そこで福音を研究し、家族を世話する方法について学んでいます。

会長は扶助協会の女性たちを二人一組に分けて姉妹たちの家を訪問してもらい、彼女たちがどのような助けを必要としているか知るよう努めています。病気をしてはいないか、食物や衣類は十分か、必要な教育は受けているか、などを把握するためです。訪問の後で、結果を報告します。靴のない女性がいます。出産間近な女性がいます、仕事の必要な人がいます。そこで、助けるために必要なものをグループ内で調達できるかどうか尋ねますが、ほとんどの場合は調達

できます。教会は、アフリカの女性会員のためにこのようなことを行っています。

わたしが話している間、西アフリカの女性たちはうなずき、ほえんでいました。そのうちの一人がこう言いました。「それは教会員でない女性のためにもお手本になりそうですね。」

扶助協会は世界中に通用する規範であり、教会の姉妹は今日の世界に善をもたらす最もすばらしく、最も有能で、最も偉大な働き手です。わたしは主の救いの業を推し進める自分たちの力に自信を持っています。■

### 注

1. *History of the Church*, 第5巻, 25参照
2. ヘンリー・B・アイリング「神からの召し」[リアホナ]2002年11月号, 76参照



# 祈って取り組んだ 『成長するわたし』

イエシカ・アナベル・ベナビデス

**わ**たしは転校先の学校で教会員でない女の子と仲良くなりました。でも、2、3年たつと、わたしが教会の活動で忙しくなつて一緒に過ごす時間が十分取れなくなったために、彼女は教会を妬むようになり、彼女と友達でいたいと心から思っていたのに、状況はどんどん悪くなる一方でした。

ある日、わたしは『成長するわたし』の活動として、2週間定期的に祈ることを含む「体験」に取りかかりました。何について祈るべきか考えたとき、友達がわたしのことを大切に思ってくれ、また、わたしにとって教会がとても大事なものと理解してくれるよう祈ることにしました。2週間がたち、「体験」の課題が終わった後も、わたしはそのことを祈り続けました。



しばらくして、『成長するわたし』を読み返したとき、祈りについての「体験」の課題を思い出しました。そのことについてじっくり考えてみると、天の御父が友達についてのわたしの祈りに対して、すでに答えてくださっていたことに気づきました。友達がすっかり変わっていたからです。彼女のわたしに対する気持ちは前とは違っていましたし、教会についても前向きに考えてくれるようになっていました。

心を込めた祈りに<sup>あかし</sup>証を得たことに気づき、わたしは胸がいっぱいになりました。天の御父が友達の心を変えてくださったことを知っています。また、自分の務めを果たせば、主が助けてくださり、奇跡を起こしてくださることも知っています。■



# なぜ死者のためにバプテスマを施すのでしょうか

十二使徒定員会

D・トッド・クリストファーソン長老



すでに世を去った人々に  
関連して  
わたしたちが行うことは  
途方もなく重要です。  
なぜなら、  
彼らは現在も  
霊の状態<sup>あがな</sup>で生きていて、  
不滅の体<sup>あわ</sup>をもって  
再び生きるからであり、  
イエス・キリストが  
それを  
可能にされたからです。

**キ**リスト教哲学者や神学者たちは昔から次のような疑問と取り組んできました。「イエスを知らずにこの世に生き、死んでいった莫大な数の人々には、どのような行く末が用意されているのだろうか。」イエス・キリストの福音が完全に回復されたために、バプテスマを受けていない死者がどのように贖われるのか、また、神がいか<sup>あがな</sup>に「完全で公正な神、憐れみ深い神」であられるのかが分かるようになりました(アルマ42：15)。

イエスはこの世においてになる間に、死者にも福音が伝えられると預言されました。ペテロによれば、これは救い主の十字架での死と復活の間に起きました(1ペテロ3：18-19参照)。ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は示現で救い主が霊界を訪問されるのを見ました。そして主は「義人〔の霊〕の中から軍勢を組織し、力と権能をまとった使者たちを任じて、暗闇の中にいる者たち、すなわちすべての人の霊のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。……

これらの者は、神を信じる信仰、罪の悔い改め、罪の赦しのための身代わりのバプテスマ、<sup>あんしゅ</sup>按手による聖霊の賜物<sup>たまもの</sup>について教えを受けた。」(教義と聖約138：30、33)

生者は身代わりとなってバプテスマなどの大切な儀式を死者のために行えるという教義が、預言者ジョセフ・スミスに改めて示されました(教義と聖約124章；128章；132章参照)。また、

復活を待つ霊たちが個人の救いを受けるだけでなく、天でも夫婦としてつなわれ、過去のすべての世代の父母や、将来にわたるすべての世代の子孫とも結び固められることが知らされました。主はジョセフ・スミスに、死者の神聖な儀式は神の御名のために建てられた建造物、神殿の中でしか適切に行えないことを告げられました(教義と聖約124：29-36参照)。

クリスチャンにとって代理の儀式という原則は不思議なものではありません。生者のためのバプテスマでは、儀式執行者は救い主の代理を務めます。キリストによる犠牲の贖いが、罪に対する正義の要求を人に代わって満たすというのは、教会の教えの中心ではないでしょうか。ゴードン・B・ヘンクレー大管長(1910-2008年)が言うように、「死者のための身代わりの働きは、わたしが知るほかのいかなる働きよりも、救い主御自身の身代わりの犠牲に近いものであると思います。それは報酬やいかなる種類の見返りも求めずに、愛をもって行われるものです。何とすばらしい原則ではないでしょうか。」<sup>1</sup>

ある人々は誤解して、死者は「知らない間にモルモンの教えに改宗させられる」<sup>2</sup>と考えています。わたしたちには人に信仰を強要する力があると決めつけているようです。もちろんそれは違います。神は初めから人に選択の自由を与えられました。教会はそうした人々を出席簿に載せてもいなければ、会員数に加えて

フサインランド・ヘルシンキ神殿バプテスマ室の写真/ジョン・ルーク、© 2010 複写は禁じられています。「生ける贖い主」/ロジャー・ミフレス画、複写は禁じられています



もいません。

死者の贖いに注ぐわたしたちの熱意、その決意のために注ぐ時間と経費は、とりもおさず、イエス・キリストに対するわたしたちの証の表明<sup>あかし</sup>なのです。それは主の聖なる属性と使命に関する最も力強い声明となっています。その証するところは第1にキリストの復活であり、第2に贖罪<sup>しよぐざい</sup>の及ぶ範囲に限界がないことであり、第3に主が救いの唯一の源であられるということであり、第4に主が救いの条件を定められ、第5に主が再び来られるということなのです。

### キリストの復活の力

復活についてはパウロがこう言っています。「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらなるとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント15:29) わたしたちが死者にバプテスマを施すのは、彼らが復活することを知っているからです。「霊は体に回復され、体は霊に回復される。そして、手足と関節はことごとくその体に回復される。まことに、髪の毛一筋さえも失われることなく、すべてのものが本来の完全な造りに回復される。」(アルマ40:23) 「なぜなら、キリストは、死者と生者との主となるために、死んで生き返られたからである。」(ローマ14:9)

すでに世を去った人々に関連してわたしたちが行うことは途方もなく重要です。なぜなら、彼らは現在も霊の状態<sup>うま</sup>で生きていて、不滅の体をもって再び生きるからであり、イエス・キリストがそれを可能にされたからです。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」という主の言葉をわたしたちは信じています(ヨハネ11:25)。死者のために行っているバプテスマによってわたしたちはこう証します。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。……

なぜなら、キリストはあらゆる敵をその足もとに置く時までには、支配を続けることになっているからである。

最後の敵として滅ぼされるのが、死である。」(1コリント15:22, 25-26)

### 救いの唯一の源であるイエス・キリスト

先祖がイエス・キリストの御名によってバプテスマを受けられるようにしたいというわたしたちの願いは、イエス・キリストが「道であり、真理であり、命であり」、「だれでも[主]によらないでは、父のみもとに行くことはできない」という事実を証しています(ヨハネ14:6)。現代のクリスチャンの中には、ただ一人の仲保者であるイエス・キリストを知らずに死んでいった大勢の人々の永遠の福利を心配し、ほんとうに「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」かどうか疑い始めている人々<sup>ごうまん</sup>がいます(エペソ4:5)。イエスだけが救い主と考えるのは、傲慢で、心の狭い、不寛容な態度であると彼らは言います。しかし、わたしたちはこれが誤った主張であると申し上げます。実際ただ一人の御方とその救いが例外なくすべての人に差し出されているのですから、その御方一人によってのみ救い<sup>ごうまん</sup>がもたらされることは理にかなっています。

### キリストが定められた救いの条件

わたしたちはイエス・キリストを贖い主として信じているので、主が、恵み<sup>めぐみ</sup>を授ける条件を決める権威をお持ちであることも認めています。そうでなければ、わたしたちは死者のためにバプテスマを受けることはしないでしよう。

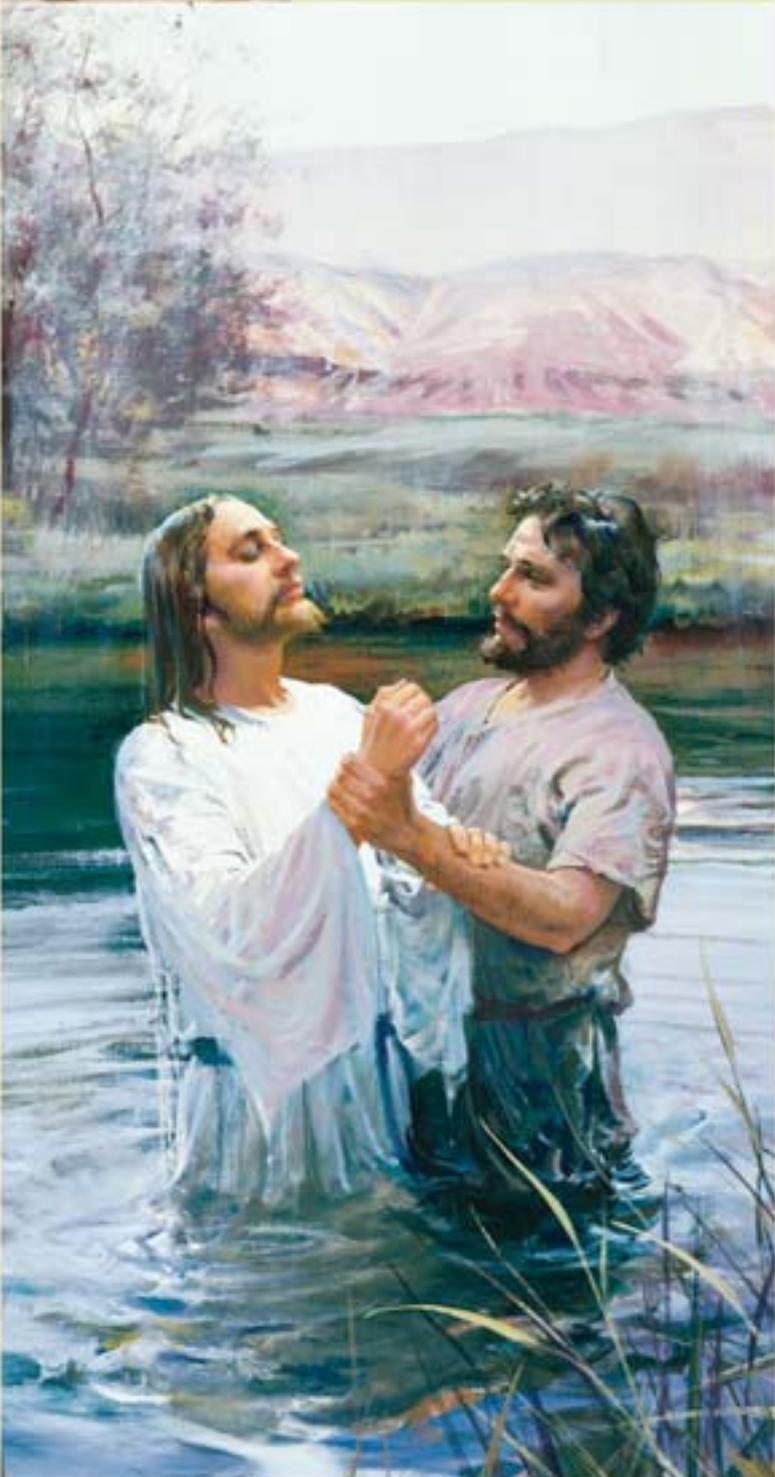
イエスは「命にいたる門は狭く、その道は細い」とはっきり言われました(マタイ7:14)。特に「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」と言われました(ヨハネ3:5)。つまりわたしたちは「悔い改め……ひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受け……聖霊の賜物を受ける」必要があるということです(使徒2:38)。

罪がないにもかかわらず、イエス・キリスト御自身もバプテスマと聖霊を受けられました。主は言われました。「父は、わたしの名によってバプテスマを受ける者に、わたしに授けてくださったと同じように聖霊を授けてくださる。それゆえ、わたしに従い、わたしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。」(2ニーファイ31:12)

例外はありませんし、必要でもありません。信じてバプテスマを受ける人々は、身代わりによる場合も含め、信仰をもって堪え忍ぶなら皆救われます。「[キリストが]時の中間に肉体を取って来られた後に信じた人々だけでなく、時の初めか



**罪**がないにもかかわらず、  
イエス・キリスト御自身も  
バプテスマと聖霊を  
受けられました。



らのすべての人、すなわち、独り子が来られる前にいたすべての人」も救われます(教義と聖約20:26)。この理由によって「死人にさえ福音が<sup>の</sup>宣べ伝えられました。「彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きようになるため」です。(1ペテロ4:6)

### 獄からの死者の解放

バプテスマをはじめとして神殿で行われる身代わりの儀式は、世代間の永遠の結びつきを可能にし、それによって地球が創造された目的を成就します。それがなければ、「[キリスト]の来臨の時に、全地はことごとく荒廃する」でしょう(教義と聖約2:3)。

聖典の中では時々、死者の霊は暗闇または獄に閉じ込められていると表現されています(イザヤ24:22, 1ペテロ3:19, アルマ40:12-13, 教義と聖約38:5参照)。主の子供たちに対する神の栄光ある贖いの計画を考えながら、預言者ジョセフ・スミスは次のような賛歌を書きました。「心を喜び樂ませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。」(教義と聖約128:22)

わたしたちの務めは、神の愛のように広く深いものであり、あらゆる時代、あらゆる場所に生きる神の子供たちに向けられています。また死者のために行うわたしたちの働きは、イエス・キリストが全人類の聖なる贖い主であられることを雄弁に証しています。主の恵みと約束は、現世で主を見いだせなかった人に対しても与えられています。主により、囚われ人は確かに解放されるでしょう。■

2000年10月の総大会における説教から。

### 注

1. 「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1998年8月号, 16-17: "Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley," *Ensign*, 1998年1月号, 73
2. ベン・フェントン, "Mormons Use Secret British War Files 'to Save Souls,'" *The Telegraph* (ロンドン), 1999年2月15日付

# わたしの 初めての戦い

コリン・スリングズビー

軍で初めて迎えた  
土曜の夜は  
人生で最も  
苦しい夜でした。  
自分の将来を左右する  
選択を  
迫られたからです。

**17**歳のとき、わたしはカナダ陸軍予備隊に志願しました。訓練基地に送られ、生まれて初めて自分の責任で進路を決めることになったのです。教会に活発に集わなくなるという誘惑を受けたり、あかし証が試されたりするかもしれないという予感がありました。

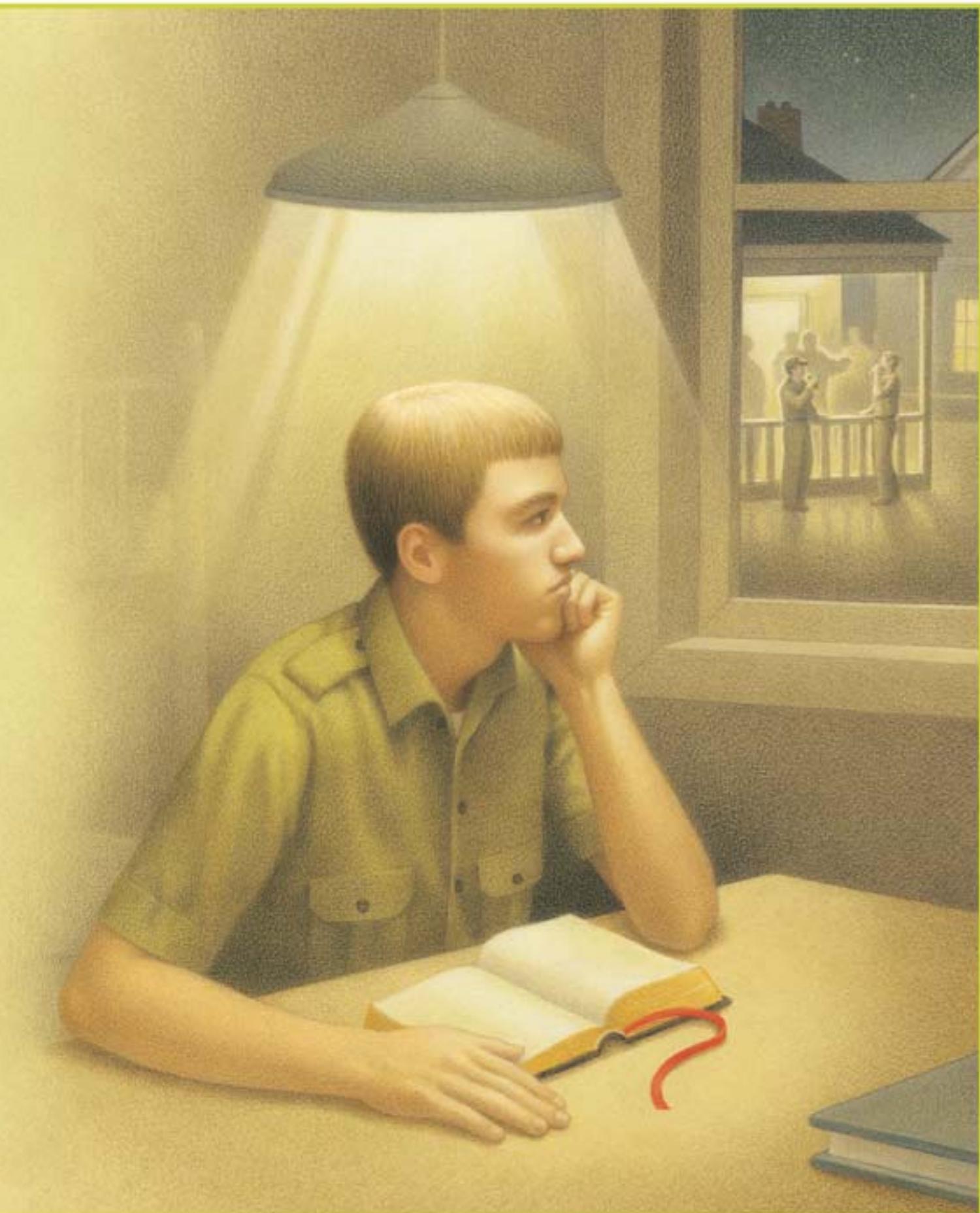
基地に着くと、訓練担当の軍曹が様々な建物や教会などを案内してくれました。わたしは御たま霊に促されて、末日聖徒の支部はどこにあるのか尋ねてみました。軍曹は一瞬沈黙しました。そして、末日聖徒の教会は基地の中にはないけれども、出席したいなら彼と妻とともに行くことができる、と言いました。彼は最近教会に改宗したばかりで、教会に行きたい人はだれでも喜んで連れて行きたいと思っていたのです。わたしは、まだその日曜日に教会に行くことと決めていたわけではありませんが、行こうと思えば行けるという選択肢があることを喜びました。何ととっても、独りきりで、今や何でも自由に選べるのですから。でも、心のどこかで教会に行った方がいいと感じていました。

その土曜の夜は人生で最も苦しい夜になりました。それ以来、その夜の出来事をわたしの「命の木」の経験と呼んでいます。数人の友達に食堂で暇をつぶそうと誘われたのが、そもそもの始まりでした。酒を飲むだけだと知ってい

たので、わたしは、明日教会に行くので早起しななければならないから寝るよ、と答えました。皆はその選択を笑い飛ばし、去って行きました。

彼らが行ってしまってから、わたしはベッドに潜り込みました。そこから窓の外に目をやり、食堂のバルコニーで酒を飲んで笑い合っている友達を見詰めました。そして、行動を共にしなかったためにからかわれたことを思い出していました。わたしは、リーハイも大きく広々とした建物を見て同じように人々にあざけり笑われたときに、このように感じたに違いないと思いました(1ニーファイ8：26-27参照)。振り返って机の方を向くと、聖典が目に飛び込んできました。わたしは、はやる思いで聖典を開き、読み始めました。聖文こそわたしの鉄の棒であり、神の言葉がリーハイの家族の安全を守ったように、わたしのことも同じように守ってくれることを知っていたからです。

その夜にどの聖句を読んだのか記憶にありませんが、そのとき御霊を感じたことは覚えています。翌朝教会に行ったときも、再び御霊を感じました。基地にいる間、毎週日曜日に教会に出席し、イエス・キリストの福音について堅固な証を築くことができました。訓練キャンプが終わってからは、カリフォルニア州サクラメント伝道部の専任宣教師として人々に証を分かち合う機会にも恵まれました。■



# 搜索救助

あなたにとって非常時の備えとは何でしょうか。  
ドミニカ共和国では、若い男性と若い女性が  
手を差し伸べる備えができている  
という意味です。

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

**彼**らは自動車事故でけがをした人たちを助けます。水泳中におぼれた人や、道に迷ったり、傷ついたりしたハイカーや洞くつ探検者たちの搜索もします。祭日には歩道にブースを設けて困っている人たちを援助します。地域の予防接種プログラムの助けもします。そして、地震、ハリケーンなどの災害のときにどうしたらいいかを知っています。

彼らは、応急手当ては基本的なものから高度なものまで、水難救助、狭い空間に閉じ込められた人の救助、災害時の対応、サバイバルスキル(生き残るための技術)まで、訓練されています。訓練マニュアルを熟知していて、教室での演習にとどまらず、山や洞くつまでハイキングをして実際の危険を想定した屋外訓練も行っています。そのうえで実際の緊急事態に対応しているのです。

2003年に組織されて以来、彼らは300人以上の人々を助けてきました。中には重い、あるいは命にかかわる大けがを負った人たちも大勢いました。また、物騒な町にたむろする10代の子供たちを数多くグループに誘い、規律や愛を教えました。



写真/リチャード・M・ロムニー



コミテ・デ・エメルヘンシアス・サント・デ・ロス・ウルティモス・ディアス(末日聖徒非常時委員会)には、訓練を受けて人を助ける備えができた末日聖徒(上)と地域の人々(左)が参加しています。

### 奉仕中心

この組織はコミテ・デ・エメルヘンシアス・サント・デ・ロス・ウルティモス・ディアス——末日聖徒非常時委員会——というボランティアグループで、礼儀と奉仕の規則に従うならだれでも加入することができます。そして、大人たちの献身的な指導の下、このグループの中核を成して活動しているのが10代の末日聖徒たちなのです。これまで200人以上の青少年がグループの活動に参加してきました。

「委員会のことを知ったのは、ある土曜日のバプテスマ会に来たときです」とジュニオル・リベラは言います。「別の部屋で、ロゴの付いた黒いTシャツと帽子を身に着けた同じ年ごろの人たちが応急手当ての訓練をしているのを見かけたのです。人を助けるために備えていると知って、特に興味をそそられました。人の役に立つことができると思ったのです。周りの人たちに手を差し伸べて助けるというのは教会の教えの一つですから。」

オネル・ロドリゲスは、グループが福音の原則に似た手順を学んでいることを、次のように説明します。「例えば、非常時にはまず自分の家族の面倒をみるように教えられています。そして、家族が大丈夫なことを確認してから、ほかの人たちを助けるのです。それは教会の福祉についての教えと同じです。」



フランクリン・デ・ロス・サントス(上)のような委員会のメンバーは、正しい装備と技術を使って訓練を受けています。搜索救助のみならず、非常時の備えや予防接種プログラムなどのような付加的な奉仕でも地域に貢献しています。

まず自分の家族の世話をしてから、人を助けなければなりません。」

フランクリン・デ・ロス・サントスは、災害のための備えを学んでいるうち、霊的な搜索救助も身体的介護と同じくらい大切なときがあることに気づかされたと言います。「強くなるためには助けの手や優しい言葉が必要な人たちも、証あかしを分かち合う必要がある人たちもいます。福音に添って生活している人は、ほかの人たちを心にかけ、霊的にも強めるべきです。」

### 実践中心

オマール・ロドリゲスは、委員会の活動の中には「神への務め」の要件を満たすのに使えるものが多いので、アロン神権やミューチャルの活動と連携して計画してきたと指摘します。

ラ・カレタ・ワードのビショップリックで第二顧問を務めるホ



セ・ヌーニェスは、青少年はクラスや定員会で福音を学びますが、それを委員会が毎日の生活に応用する助けをしているのだと言います。「町に出て助けを必要としている人たちと直接接触れ合うとき、互いに愛し合うとはどういうことなのか実際に学ぶことになります。周りの人たちを愛するようになります。また、自制について学びますから、自分自身をも愛せるようになります。それが、どこにいても適切に行動できる自信をもたらすのです。」

委員会の活動が教会の通常の活動に取って代わるわけではないともヌーニェス兄弟は指摘します。「委員会の活動は教会の活動を補うものです。例えば、神権定員会と若い女性のクラスでは福音の原則を学びます。しかし、委員会やその他の奉仕プロジェクトのような福音中心の活動が、学んだことを実践する機会になっているのです。」それが、青少年たちが「ただ聞くだけの者」ではなく「御言みことばを行う人にな[る]」一つの方法だと言います(ヤコブの手紙1:22)。

### 地域中心

オマールによると、委員会にはよく、はしかの予防接種などの地域プログラムを助けるよう要請があるそうです。「助けが必要な所だったらどこにでも行こうと思っています。地域の人たちはそれをよく知っていますし、ほくたちの訓練が行き届いているので信頼してくれています。」事実、バシリオ・カブレラとドミンゴ・ペラルタという二人の教会員によって設立されたこのコミテ(委員会)では、赤十字や民間防衛隊と同じ手法を使っています。末日聖徒イエス・キリスト教会が後援するこのグループは公衆衛生局から特別表彰を受けたこともあり、市役所や州政府からも複数の表彰を受けています。

ヌーニェス兄弟によると、委員会ではサントドミンゴと周辺地域にある危険区域の調査に従った緊急時対応計画を作成しているとのこと。「非常時にはこれらの危険区域に出動して、助けが必要な教会員がいないか見極めます。同時に、その地域のすべての人々の必要を判断して当局に報告します。台風、地震、洪水などの災害が発生した場合、どの地域が最も危険か確認してありますから、どこの人たちがすぐに避難しなければならないか分かるのです。暴風のときの被害を避けるには、どの辺の木の枝を切っておかなければならないかまで把握しています。その作業は青少年の割り当ての一つになっています。」

委員会のメンバーは、クリスマスや復活祭の祭日にも一部時間を犠牲にして、大人の監督下で24時間の警戒態勢に参加します。「この時期は、酒を飲んでいるために事故に遭ったり、いろいろな問題が起きたりすることが多いのです」とヌーニェス兄弟は言います。それ自体、大変現実的な形で、知恵の言葉を守ることの大切さを委員会のメンバーに教えてくれます(教義と聖約89章参照)。



### 準備を整え、自発的、意欲的に

では、委員会のメンバーはなぜ奉仕のために時間を割いているのでしょうか。なぜわざわざそれほどまでに訓練を受けているのでしょうか。

オマールは、メンバーになれば時間と努力が要るけれども、それだけの価値があると言います。熱帯暴風ノエルが通過した後によく分かったのは、人を助けることに大きな喜びを感じるということでした。「わたしたちの任務は困っている人たちに衣類と食べ物を配給することでした。苦しんでいる人たちに着る物と食べ物を持って行ったとき、彼らの喜ぶ姿を見てとても良い気持ちを感じました。」

オシリス・ロドリゲスは委員会が一致していることに感謝しています。彼は、それは定員会や教会の青少年の間で一般に感じられる一致の延長だと考えています。

数か月前に教会に入ったジュニオル・バチスタも、非常時委員会のことを知ってぜひ参加したいと思ったと言います。そして参加して後悔はしていません。「互いに愛し合いなさいという戒めを守っているのですから、良い気持ちになります。わたしたちは兄弟姉妹、神の息子、娘として一致しています。」

奉仕をしてそんな風に感じられるなら、ずっと奉仕が続けられることでしょう。■



オシリス・ロドリゲス



ジュニオル・リベラ



ジュニオル・バチスタ



ホセ・ヌーニェス

委員会のメンバーはなぜ奉仕のために時間を割いているのでしょうか。なぜわざわざそれほど訓練を受ける努力をするのでしょうか。メンバーたちは、周りの人々を愛し仕えなさいという戒めに従っているので良い気持ちを感じると言います。

# リアルタイムで 一対一の会話ができます

今すぐ天の御父と話がしたいのですか？  
御父はいつも近くにおられます。  
(2ニーファイ32:9参照)

## 福音に平安と希望を見いだしました

ブライアン・チャティマ

**わ**たしはアフリカのジンバブエにあるビンドゥラという小さな町で、6人きょうだいの末っ子として生まれました。両親はわたしが生まれて数年後に離婚し、善良で愛にあふれた母は4人の娘と2人の息子を独りで育てなければなりませんでした。

生活は苦しかったです。学校に通うのに4、5キロ歩かなければなりませんでしたし、靴がないことも、食べるものがないこともありました。毎年、学校へ納める学費がなくて学期半ばで通えなくなりました。どうしても期限までに学費が工面できなかったのです。お金が手に入ったときは、そのお金の出所を調べようとしましたが、不可能でした。わたしたちがちゃんと育ったのは奇跡みこころです。すべて天の御父の愛と御心のおかげです。

母は教会に行くのが好きでした。わたしはいちばん年下だったので、いつも母と一緒に行っていました。1998年、わたしが13歳のときに末日聖徒の宣教師が二人、あまり活発でない教会員を訪問しに近所にやって来ました。宣教師が通りかかったとき、わたしは友達とサッカーをしていました。宣教師と話をすると、次の週に家を訪問してもいいかと尋ねられました。わたしたちは宣教師から福音を学び、バプテスマを受けることにしました。

それから4年後の2002年、父と、姉の一人が1週間違いで亡くなりました。わたしは教会に通い続け、地方部宣教



**伝**道に出て  
わずか  
数か月後、  
兄から悪い知らせが  
ありました。  
しかし、  
あかし証のおかげで、  
思い悩むことは  
ありませんでした。

師として奉仕し、やがて2004年7月に専任宣教師として南アフリカ・ダーバン伝道部で奉仕するよう召しを受けました。伝道を始めてわずか数か月後、兄から伝道部会長に電話があり、母が亡くなって、すでに埋葬されたと知らされ

ました。そのようなすばらしい母を亡くすることがどんなにつらかったか想像できるでしょうか。さらに4か月後、もう一人の姉も亡くなりました。

わたしは宣教師として、回復された福音について人々に教えていました。

<sup>あかし</sup>その証のおかげで、家族の死にも思い悩むことはありませんでした。時が来れば再び両親や姉たちに会えるという平安と希望がありました。2006年の7月、わたしは伝道から帰還する途中に、南アフリカ・ヨハネスバーグ神殿に立ち寄り、亡くなった家族の男性分の身代わりのバプテスマを受け、亡くなった姉たちのためにもバプテスマをしてもらいました。

ジンバブエの状況は今も厳しいですが、わたしには、教会の指導者とプログラムに従っていれば必ず良いことが起こるといふきわめて強い証があります。どんな苦難に遭遇しても、イエス・キリストの回復された福音に平安と希望を見いだすことができます。御自身の教会と御自身の子供たちを見守り導いてくださる神に感謝します。主が神殿を与えてくださったことにも感謝します。家族に再び会えるという平安と希望を与えてくれるからです。

主は言われました。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:33)

わたしたちが皆、苦難に遭遇しても、主の御心を決して疑わず、疑問を抱くことなく、良き報いを望み続けられますように。■

## ほんとうに必要な助け

サラ・カトラー

**そ**の日は予定がぎっしり詰まった忙しい日だったので、朝早く玄関を飛び出しました。<sup>かばん</sup>鞆には教科書、護身術用の胴着、ダンスシューズ、昼食と夕食分の弁当といった、忙しい学生生活の必需品でいっぱいでした。その日は、十分に準備ができていない試験が二つあり、まだ終わっていない読書課題もあって、その日のうちに行くべき所に全部行く時間もない状態でした。

ダンスの試験に必要なスカートをはきながら、大きな鞆を背負っていることをばかばかしく感じたうえに、最初

のクラスに遅れそうなので絶望的な気分になっていました。そんなとき、何十人も学生や車が行き交うにぎやかな交差点でつまずいて転んでしまったのです。下ろし立てのストッキングには穴が開き、わたしは恥ずかしさと失意で泣き出してしまいました。朝の7時だというのに、もう泣いていたのです。

立ち上がり、足を引きずって大学に向かいながら、どうぞだれかわたしを元気づけてくれる人を遣わしてくださいと熱心に主に祈りました。母の顔が見られたら最高だったのでしようが、母がいるのは一つ州を挟んだ向こうです。もしかしたら、主は祈りにこたえてルームメートの一人を教

**だ**れかわたしを元気づけてくれる人を遣わしてくださいと熱心に主に祈りました。



室によこしてくださるかもしれない。それとも、同じワードの大好きな男の子を遣わしてくださるかも。

最初のクラスに急ぎ、期待を込めて廻りを見回しても、知っている人はだれもいませんでした。わたしは泣きながら最初の試験を受け、2番目のクラスに急ぎましたが、遅刻してしまいました。3番目のクラスに向かって走っているときも、次の試験を受けに急いでいるときも、わたしはまだ動揺していました。でも、試験が思ったよりうまくいき、勉強しながら昼食が食べられる静かな廊下を見つけたころには、気持ちは少し落ち着いていました。かがみ込んで本を読んでいると、わたしの名前を呼ぶ声が聞こえました。

顔を上げると、家庭訪問教師が立っていました。それまで一度も大学では見かけることのなかった姉妹です。わたしの横に腰を下ろした彼女と1時間近くも話をしました。しかも、その日わたしが感じた失意ではなく、生活が順調にいつていることや、お互いの将来の計画、そして彼女の心配事について話したのです。

朝の祈りのことを思い出したのは、彼女が立ち去った後でした。主が祈りへの答えとして、わたしを見守るよう召されている女性を遣わして下さったのは当然のことでした。自分を元気づけてくれる人がほしいと思ったのは朝早くでした。でも、主はわたしが少し落ち着くまで待てば、友人から必要な慰めを受ける用意ができ、同じように困難に直面している人を慰められることを御存じだったのです。

主はわたしをよく御存じで、ちょうどよい時機を見計らって、ほんとうに必要な助けを遣わして下さったのです。■



## 家畜置き場での祈り

コニー・クルックストン・フォースグレン

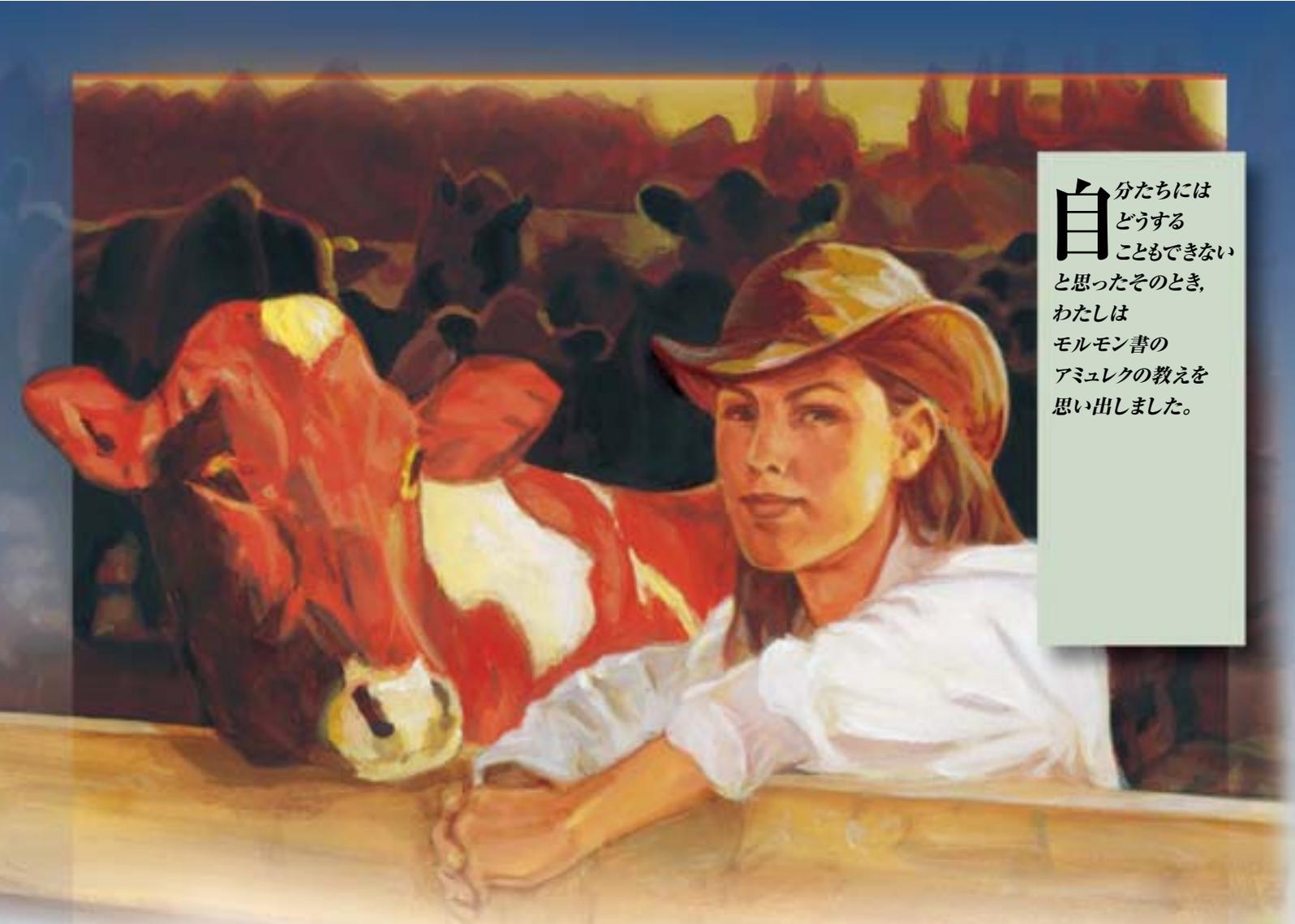
干ばつのため、夫のジョンとわたしは飼っている肉牛を、損を覚悟で安く売らねばならぬか、アメリカ合衆国のアイダホ州南西部にあるメルバ盆地から移動させるべきか決断を迫られていました。幸い、ジョンが約480キロ離れたプレストン地域のいとこの農場に夏用の放牧場があるのを見つけました。

わたしたちは全40頭の牛を一度に運んでもらえるよう手配しました。しかし、トラックの運転手は放牧場に通じ

る32キロのでこぼこの農道が気に入らず、残念なことに、近くの家畜置き場に牛を降ろしてしまったのです。日が暮れかかるなか、40頭の牛を搬送するすべもなく、わたしたちは途方に暮れました。

ジョンが通りがかりの近くの農夫を呼び止め、窮状を説明して助けを求めました。数分後、ステーブ・ミークスビショップが年若い息子連れて家畜置き場まで様子を見に来てくれました。

牛たちは落ち着きを失っており、家畜置き場のさくの一部が壊れているのを見るや、自由を求めて走り出しました。1頭を除き、すべての牛がさくを飛び越えて別の囲いに入りました。その残った1頭は、体はほぼさくを越えてい



自分たちには  
どうする  
こともできない  
と思ったそのとき、  
わたしは  
モルモン書の  
アミュレクの教えを  
思い出しました。

ましたが、後ろ足が1本、2枚の横板に挟まれてしまったのです。そのために前足が1本かろうじて地面に触れているという不安定な格好でさくにぶら下がっていました。何とか自由になろうと、もう1本の後ろ足で猛然とけっぺります。

牛を解放するには牛をつり上げるホイストという装置が必要でした。もし牛の足が折れたら、安楽死させるしかありません。牛を一頭失うのは、わたしたちには経済的にかなりの痛手でした。

牛の体重は455キロ以上ありましたから、わたしたちは近くにも寄れず、助けてやることもできませんでした。さくで起きている騒ぎで、ほかの牛たちも神経質になっていました。

自分たちにはどうすることもできないと思ったそのとき、わたしはモルモ

ン書のアミュレクの教えを思い出しました。「牧場にいるときには、まことに、すべての家畜の群れについて神に呼び求めなさい。」(アルマ34:20) わたしは皆から離れ、ひざまずいて、心を込めて祈りました。嘆願の終わりに、「天のお父様、どうぞ牛を助けてください」と願い求めました。

祈りの言葉がまだ唇に残っている感覚で、わたしは囲いに戻りました。このころになると、さくに引っかかった牛も含め、牛たちは少し落ち着いていました。

すると突然、ウロウロと動き回っていた群れからいちばん大きな牛が1頭離れ始めました。皆で懸命に群れに連れ戻そうとしたのですが、牛はかまわず、ぶら下がっている牛の方に近づいて行きました。そして頭を下げると、ひざをつき、引っかかった牛の下に自分の体

を潜り込ませて、ゆっくりと立ち上がりました。引っかかっていた牛を空中に持ち上げて下ろしたのです。牛は自由になりました！ホイストを使っても、こうはうまくいかなかったでしょう。

2頭の牛は走って群れに戻って行きました。ミークスビショップは、たった今日撃したものを信じられない思いで見詰めていました。わたしは涙を流しながらささやきました。「天のお父様、ありがとうございます。」

牛について知識のある人ならだれでも、牛は物事を論理的に考える動物ではないと言うはずですが、この出来事は説明できます。それは、天の御父が祈りを聞いてこたえてくださるということです。御父は確かに、アイダホ州プレストンの家畜置き場で、わたしの祈りにこたえてくださいました。■

## クオピオでの薪<sup>まき</sup>割り

ブライアント・ジェンソン

1968年の夏の終わりのことです。わたしは宣教師の同僚、ケン・ヒートン長老と、フィンランドのクオピオに住む会員の家族を訪問しました。母親と娘は教会員でしたが、父親はそうではありませんでした。

母親に頼まれ、わたしたちは隣の部屋にいる夫に聞こえるように大声で彼女と娘に福音を教えました。一緒に聞かないかと誘ってみました。時間がないとのことでした。あるとき、彼は冬

に備えて裏庭に積んである材木を全部薪にしなければならないからと言いつてをしました。

わたしたちは「じゃあ、もし薪割りが全部済んだらお話を聞いてくれますか」と尋ねました。

彼は「いいですよ」と答えました。でも、材木の量はかなりあるので、全部終えるにはかなり時間がかかるだろうと付け加えました。

それから数日後、わたしたちはこの父親が出勤する時間を見計らってその家を訪ねました。母親の許可を得て、二人で一日中薪を割り、割った薪を積み上げました。全部割り終わったのは父親が帰宅する少し前の午後5時でし

た。わたしたちは彼の驚く顔を見たくてたまりませんでした。見つかる前に急いで帰途につきました。アパートまで自転車で帰り、身繕いしてから、もう一度自転車をこいで夜の7時ごろ彼の家を訪問しました。

「さあ、薪割りは終わりましたよ!」とわたしたちは高らかに宣言しました。「これでお話を聞いてくれますよね。」

彼はほほえんでうなずき、皆のいる居間に来るしかありませんでした。それから数週間後、宣教師の準備した福音についての話を聞き終わったこの善良な兄弟はバプテスマと確認の儀式を受けたのでした。■

「薪<sup>まき</sup>割りは  
終わりましたよ!」

とわたしたちは  
高らかに  
宣言しました。  
「これでお話を  
聞いてくれますよね。」

## 家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにも役立てることができます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

### 「日の栄えに至る自立の本質」15ページ——マリオ

ン・G・ロムニー管長の記事の中から「愚かなカモメ」の話をつかち合います。かもめたちはどうして魚が取れなくなってしまったのでしょうか。自立とは何かを説明してから、家族がよりいっそう自立できるようにするにはどうしたらよいか話し合います。記事の最後の2段落を読みます。家族で力を合わせて隣人を助けるとい目標を立ててください。

「信仰によって歩く……見えるものによらず」22ページ——家族全員が交代で目隠しをして、渡された小さな品物が何かを当てます。どうやって当てることができたか話し合います。ダギー姉妹の話を読み、目に見えるものに頼らず信仰によって歩くとはどういう



ことか話し合います。

### 「なぜ死者のためにバプテスマを施すのでしょうか」32ページ——記事の第1段落を読んでレッスンを始めます。

記事に引用されている聖句を家族と一緒に読んでください。それぞれの聖句の意味と、それがどのように死者のためのバプテスマに適用されるかを話し合います。最後に、記事で学んだ原則を友達や家族と分かち合う方法を実演して、レッスンを終えます。

「捜索救助」38ページ——記事を家族と分かち合います。家族内で非常時委員会を作り、一人一人に責任を割り当てます。実際に家族が直面するかもしれない非常事態について話し合います。予防策または準備対策としてできることを計画してください。非常時計画を整備し、その計画を用いた訓練をするという目標を立てます。

### 「立ち上がる……カレブのために」F8ページ——順番に家族一人一人の

## 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	神殿, 32, F4
祈り, 2, 31, 42, 44, 45,	神殿活動, 32
F10, F13	救いの計画, 32
改宗・改心, 43	スミス, ジョセフ, F6
家族, 25, F4	「成長するわたし」, 31
家庭訪問, 25, 26	備え, 10, 20, 38
奇跡, 22	たとえ, 20
希望, 43	知恵の言葉, 36, F10
謙遜, 8	伝道活動, 43, 47
財政, 10	標準, 36
再臨, 20	扶助協会, 26
死者のためのバプテスマ,	復活, 32
32	奉仕, 15, 38, 47, F6
指導者を支持する, F2	恵み, 8
食糧貯蔵, 10	模範, F8, F10
自立, 10, 15	勇気, 36, F8, F14
試験, 8, 43	預言者, F2
信仰, 2, 22	霊的自立, 15, 22
親切, F6, F8	

良い点を話してもらいます。カレブの話を紹介します。ルークの行動と、ルークの勇気のおかげでどんなことが起こったか話し合います。自分または知っている人が、だれかをかばったときのことを話してもらいましょう。人をかばうという目標を立てます。

## 家庭の午後

ある日教会で、一人の姉妹に寂しいと打ち明けられました。わたしも彼女と同じで、夫に先立たれて独りで暮らしているのです。ふと、ある考えがひらめきました。月曜日に集まって、一緒に家庭の夕べをしたらどうでしょう。ほかの独り暮らしの姉妹も招待できるかもしれません。少し調べてみると、ワードには参加できそうな姉妹が8人いることが分かりました。うち6人が夫に先立たれた

人、一人が独身、そしてもう一人は夫が教会員ではない会員の姉妹です。わたしはビショップの承認を得て、皆で家庭の「午後」を開くことにしました。(午後にしたのは、ほとんどの人は目が悪いので、暗くなってからの外出は控えたかったからです。) 集まる場所とレッスンの教師は持ち回りにしました。最高の収穫は姉妹としての愛で結ばれた真の友情が芽生えたことかもしれません。

今は皆、家庭の「午後」が来るのを心待ちにしています。一緒に楽しく福音を学び、主イエス・キリストへの信仰と愛が強められる、そんなすばらしい友情を満喫しています。イルマ・デ・マケナ, チリ

## お気に入りの家庭の夕べ

あなたのお気に入りの家庭の夕べを紹介してください。簡単な説明を添え、[liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) までお送りください。



「ジャガイモの収穫」 B・Y・アンデリン画

「あなたは六日のあいだ働き、七日目には休まなければならない。」(出エジプト34:21)



**家**庭貯蔵に関する教会の勧告に従うとき、  
わたしたちは「備えていれば恐れることはない」  
ということを学びます(教義と聖約38:30)。

そしてさらに備えるにつれて、  
「独立や自立はわたしたちの霊的成長を左右する  
重要な鍵<sup>かぎ</sup>である」ことが分かります。

マリオン・G・ロムニー管長

「日の栄えに至る自立の本質」

15ページ参照。10, 20, 22ページも参照。

